

全国53,000人の“海の救難ボランティア”の活動を支えます。

**青い羽根募金**

「青い羽根募金」は、海のボランティア救助活動を支えています。



私たちの“幸せのバブルリング®”で海のボランティア救助活動を応援します。

島根県立しまね海洋館 シロイルカ 幸せのバブルリング®

### 募金の方法

#### 口座振込みによる募金

##### 郵便局

口座番号:00120-4-8400  
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会

##### 銀行

三井住友銀行日本橋東支店  
口座番号:(普)7468319  
加入者名:公益社団法人 日本水難救済会  
青い羽根募金口

#### インターネット募金

青い羽根募金



- ホームページから以下の方法で募金ができます。
- クレジットカードはMasterCard、VISA、JCB、AMEXがご利用できます。
- NTTコミュニケーションズが提供するネット専用電子マネー「ちょコムeマネー」がご利用できます。

●お問い合わせ先 ☎ **0120-01-5587**

募金フリーダイヤルでお申し出ください。振込料無料の専用郵便振替用紙をお送りします。



### 公益社団法人日本水難救済会

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル7階

TEL:03-3222-8066 FAX:03-3222-8067

<http://www.mrj.or.jp> E-mail [v1161@mrj.or.jp](mailto:v1161@mrj.or.jp)

平成27年度 助成事業

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

# マリンレスキュー ジャーナル

Vol 108 No1  
2016年 1月号

特集 洋上救急制度創設30周年記念式典を開催

連載 マリンレスキュー紀行  
海の安全安心を支える  
ボランティアたちの群像

鹿児島県水難救済会 瀬戸内救難所 / 奄美市救難所 笠利支所

青い羽根募金活動レポート2015

レスキュー41～地方水難救済会の現状

シリーズ③



### 公益社団法人 日本水難救済会

マリンレスキュージャパンは、(公社)日本水難救済会の愛称です。





## 名誉総裁 年頭挨拶



新年明けましておめでとうございます。

本年も、全国の救難所員の皆様が、  
海上における、人命、船舶の救済に力を尽くし、  
海上産業の発展と海上交通の安全確保に  
寄与されますとともに、  
国民の皆様から益々信頼され、  
発展を遂げられますことを願っております。

平成28年1月1日

公益社団法人 日本水難救済会  
名誉総裁 憲仁親王妃久子

## 年頭挨拶



平成28年の年頭にあたり  
海上の安全と安心のための  
皆様のご活躍をご祈念申し上げます。

公益社団法人 日本水難救済会

会長 相原 力

平成28年の年頭にあたり、全国の地方水難救済会をはじめ各地の救難所・支所の救難所員とその活動を支えておられるご家族の皆様をはじめ、洋上救急や青い羽根募金活動に携わっていただいている皆様に、謹んで新年のご挨拶申し上げます。

全国の救難所員等の皆様におかれましては、昼夜を問わず海難救助出動等にご尽力をいただいております。関係者の皆様に心から敬意を表します。

海の現場での海難救助活動は荒天下あるいは夜間での作業を余儀なくされ、救助活動をされる救難所員の方々に危険が迫ることが多く、そのご苦労は大変なことと思います。日本水難救済会は明治22年の創設以来、平成27年12月末までに救難所員の皆様のご活躍により、全国で累計196,139人の尊い人命を救助してきた実績を誇っており、昨年は12月末までに全国で301件の海難に対応し、248名、131隻の船舶を救助し、沿岸における海難救助に多大な成果を上げることができました。

また、昨年は、台風の接近に伴って降り続く大雨により山麓の県道が不通となり、サマーキャンプに参加していた小中学生が施設内に孤立し、海上保安部からの要請を受けた徳島県水難救済会阿南救難所椿泊支所は支所長の適切な指示のもと3隻の救助船に対して出動を指示し、大雨洪水警報発令の降雨の中、救助員の方々が一致協力して卓越した操船技術により施設内に孤立した小中学生等48名を沖合に待機中の巡視船艇まで移送し無事救助されましたことに対して名誉総裁表彰を受章されました。

また、平成25年12月に長崎県五島市男女群島の沖合海上で深夜、荒天下、居住区から出火し、船首付近に退避した漁船の乗組員を救助されたことから一昨年の名誉総裁表彰を受章された長崎県水難救済会橘湾東部救難所南串山支所の救助員の方が昨年5月に人命救助の功績により紅綬褒章を受章されました。これも偏に、これまで水難救済に携わられてきた皆様の崇高なボランティア精神に依るものであ

り、深く敬意を表するものです。

洋上救急でございますが、昭和60年10月1日にこの制度が発足して以来、関係の皆様のご心強いご支援ご指導のもと、これまで順調に推移し、昨年10月1日で制度創設30周年を迎えることとなりました。そして、10月5日には本会名誉総裁高円宮妃殿下にご台臨を仰ぎ、「洋上救急制度創設30周年記念式典」を盛大に開催することができましたが、これまでご支援をいただきました関係者の皆様方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

洋上救急は昨年は13件の出動があり、また、洋上救急制度創設以来、平成27年末までに延べ825件の出動が行われております。洋上救急制度は海上を活動の場とする船員やそのご家族の安心をもたらすものとして、関係の皆様からも高く評価されており、今後とも一層の充実を図って参る所存でございますので、さらなるご支援をよろしくお願いいたします。

青い羽根募金につきましては、昨年は、海上保安庁をはじめ国土交通省、消防庁、水産庁、防衛省などの国の機関のほか、各種企業や海洋少年団などのご協力をいただきました。お陰さまで、青い羽根募金活動はもとより、青い羽根募金支援自動販売機の設置箇所の増にも取り組んで頂きましたことにより多大な成果がございました。関係の皆様に御礼申し上げますとともに、更なる拡大を期待しておりますので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

日本水難救済会は、約53,000人のボランティア救助員の活動のご支援のため、本年も的確な運営を推進していく所存でございますので、よろしくお願いいたします。

地方水難救済会をはじめ、各救難所・支所の皆様及びご家族のご健勝とますますのご発展をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。





海上保安庁 長官  
佐藤 雄二

平成28年の年頭にあたり、  
謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

公益社団法人日本水難救済会におかれましては、崇高なボランティア精神のもと、明治22年の創設以来、これまでに約196,000人に及ぶ尊い人命と約40,000隻の船舶を救助するなど、輝かしい実績を積み上げられ、歴史と伝統を築き上げてこられました。

また、昭和60年に開始され昨年30周年を迎えた洋上救急事業につきましても、出動件数は820件を超え、850人余の方々を救助されるという大きな功績を残しておられます。

これらの実績は、生業が在る中で、尊い人命の救助のため、献身的に活動されている全国各地の約53,000人の救難所員の方々、昼夜を問わず巡視船艇や航空機に同乗し、緊急の医療処置を行っていただいている協力医療機関の医師・看護師の方々をはじめ、洋上救急事業の推進にご尽力されている関係機関・団体のたゆまぬ努力の賜物であり、心から敬意を表する次第であります。

さて、昨年の海上保安庁の出来事を振り返りますと、4月にネパールで発生した大規模地震災害への国際緊急援助隊の派遣や5月の口永良部島新岳の噴火災害、9月の関東・東北豪雨災害といった災害対応の場での関係機関・団体と連携した救助活動を行いました。

このような中、我が国周辺海域における海難の発生状況を見ても、年間約2,300隻余の船舶が海難に遭遇し、人身事故によるものも含め、年間約1,300人を超える尊い命が失われており、海上での事故が後を絶たない現状があります。海難救助は、海上保安庁の基幹業務であり、これを疎かにすることがあってはなりません。このため、海上保安庁では、巡視船艇・航空機の高性能化とともに、ヘリコプターからの降下、潜水、救急救命といった救助技術能力の向上など、救助・救急体制の充実強化を図っているところであります。

しかし、広大な海域において発生する船舶海難や人身事故に迅速かつ的確に対応するためには、海上

保安庁等の公的救助機関の勢力のみではなく、民間救助機関との連携が必要不可欠となります。

海難の約9割が距岸20海里未満の沿岸部で発生しており、これらの海難への対応においては、各地域の特性を熟知した水難救済会の救難所員の皆様による救助活動が極めて効果的であり、その存在は、海で遭難した方やその関係者のみならず、我々海上保安庁にとっても非常に頼もしく、なくてはならないものです。

また、洋上で発生した傷病者を救う洋上救急事業につきましても、船員の方々やご家族、関係者にとって、大変心強いものとなっております。国内はもとより、国外からも高い評価を受けているところであります。

さらには、地震等の自然災害に対する国民の防災意識が高まっている中、災害発生時における人員の輸送や緊急支援物資の搬送等の救援活動にもご尽力いただいております。

海上保安庁といたしましても、このような水難救済会関係者の皆様の献身的な活動に対し、可能な限りの支援をさせていただくとともに、緊密な連携のもと、海上における人命救助に万全を期していく所存ですので、引き続き皆様のご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

最後に、全国各地において、崇高な使命のもと、日夜ご活躍されている救難所員、医師、看護師等関係者の皆様のご健勝と、公益社団法人日本水難救済会の益々のご発展を祈念いたしまして、私の新年の挨拶とさせていただきます。



公益社団法人 日本水難救済会  
理事長 向田 昌幸

「猿」と「申」の年を迎えて

新年明けまして おめでとうございます。

年頭にあたり、日頃から荒天暗夜をも厭わず、水難救助活動や洋上救急に勤しんでおられる全国のボランティア救助員の皆様と医師や看護師の皆さまをはじめ、陰に陽に支えておられるご家族並びに地方水難救済会及び協力医療機関の皆さま、そしていつも惜しみないご厚情とご指導を賜っている中央と地方の官公民の関係機関・団体並びに多くの市民や企業の皆さま方に対しまして、新春のお慶びを申し上げます。

さて、わが国は小さな島国とはいえ、長大な海岸線を有しているだけに、沿岸海域で日常的に発生する遭難事故に国や地方自治体の公的な救難体制だけで迅速的確に救助の手を差し延べることは困難です。そこで、それを補完する重要な役割を担っているのが、全国40の臨海道府県にある地方水難救済会に所属する総勢約53,000名に上るボランティア救助員の皆さまです。

最近の船舶海難や海浜事故の発生状況を見ますと、科学技術の進歩や沿岸漁業の衰退等とも相俟って、漁船や貨物船等の遭難、すなわち海上で働く船員等の遭難は減少していますが、その一方でプレジャーボートの遭難や釣り・ダイビング等のマリレジャーに関連した一般市民の遭難の割合が大きくなっています。こうした中で、全国のボランティア救助員の皆さまが、昨年だけでも約300件を超える船舶海難や海浜事故に出動し、240名以上の尊い人命と約130隻の船舶を救助されています。また最近では、台風や集中豪雨等による洪水や土砂災害をはじめ、火山の噴火や地震津波等による自然災害も全国各地で散発しており、一般国民の防災意識も随分高まっており、官民一体となった防災体制の充実強化が喫緊の重要課題となっております。とりわけ臨海地域や離島等では、国や地方自治体による公的な救難防災体制を補完する地方水難救済会の役割は一段と重要になっており、その分各地方水難救済会とボランティア救助員の皆さまに寄せる地元地域社会の

期待も一段と強く大きくなっているに違いありません。そこで、皆さまにおかれましては、地元の期待にこたえていくため、日頃の捜索救助活動はもとより、万一の大規模災害への備えにも万全を期して頂きますよう、心から祈念しております。

ところで、本会が運営している洋上救急制度は、わが国独自の官民連携による世界に誇るべき洋上での救急医療サービスです。昭和60年10月1日に正式に運用を開始して以来、お陰さまで昨年10月に制度創設30周年を迎えることができました。同月5日には、本会名誉総裁の高円宮妃殿下のご台臨を仰ぎ、洋上救急制度創設30周年記念式典を盛大に挙りました。式典では、制度創設以来長年にわたり洋上救急に多大な功績のあった3つの医療機関に対し、名誉総裁から表彰状と名誉総裁盾が直接授与され、太田国土交通大臣(当時)をはじめご来賓からご祝辞を頂戴しました。昨年12月末までの洋上救急実績は、825件の救急事案に対し、延べ1,567名の医師・看護師が出動し、日本人船員のみならず多くの外国人船員等を含む合計855名もの重篤な傷病者を日本周辺の遙か沖合から最寄りの医療機関まで応急手当てを施しながら救急搬送しており、日本周辺海域を往来する商船や漁船の関係者からその国籍の如何を問わず、大きな信頼と高い評価を得ています。本会と致しましても、30周年という節目を機に、新たな決意をもってこの素晴らしい日本の洋上救急制度を引き続き維持発展させていく所存です。今後とも皆さまのご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後に、本年の干支は「さる」。知恵があって事に当たっては機敏に立ち回るのが「猿」。本来の「申」は、果実が成熟して固まって行く状態を表すそうです。課題が山積している本会としましては、「猿」であり「申」でもありたいと願っております。どうか皆さま方におかれましては、今年も健康と安全を第一に、地元地域社会のために大いにご活躍されますよう祈念申し上げ、年頭のごあいさつと致します。



# 洋上救急制度創設30周年記念式典を開催

日本水難救済会の洋上救急制度が昭和60年10月1日に開始され、昨年で創設30周年を迎えることとなりました。この洋上救急制度創設から30年目を迎えるにあたり、本会では洋上救急制度創設記念事業を実施していますが、この事業の一環として、平成27年10月5日16時40分から東京都千代田区の花見公園において、名誉総裁高円宮妃久子殿下ご台臨のもと「洋上救急制度創設30周年記念式典」を盛大に挙行了しました。



開式時の式典会場の様子



名誉総裁 高円宮妃久子殿下からおことばを賜りました



開式時の日本水難救済会相原会長の式辞



記念式典に先立ち「洋上救急30年のあゆみ」が放映されました



ご来賓の皆様（左から太田国土交通大臣(当時)、佐藤海上保安庁長官、佐藤水産庁長官）



式典に出席の役員（左から重中央洋上救急支援協議会会長、向田理事長、相原会長）



ご来賓の太田昭宏国土交通大臣(当時)と佐藤一雄水産庁長官からご祝辞をいただきました



## 記念式典では、洋上救急功労者に対し名誉総裁表彰が行われました。

洋上救急制度創設から30年間において、洋上救急功労に係る名誉総裁表彰の基準（出動回数60回、出動医師等100名）を遥かに超える功労があったと認められる次の団体に名誉総裁高円宮妃久子殿下から名誉総裁表彰として表彰状と名誉総裁盾が直接授与されました。

- ・日本医科大学付属病院（昭和60年3月17日から出動回数115回、出動医師・看護師等230名）
- ・東海大学医学部付属病院（昭和63年7月23日から出動回数 77回、出動医師・看護師等213名）
- ・沖縄赤十字病院（昭和62年5月 9日から出動回数 61回、出動医師・看護師等112名）



日本医科大学付属病院 病院長 坂本篤裕 氏ほか



東海大学医学部付属病院 病院長 猪口貞樹 氏ほか



沖縄赤十字病院 副病院長 大嶺 靖 氏ほか



謝辞を述べられる日本医科大学付属病院 病院長 坂本篤裕 氏



## 祝賀会を開催しました。

式典の後、高円宮妃久子殿下ご台臨のもと、祝賀会を開催いたしました。祝賀会では、相原会長挨拶ののち、海上保安庁長官からご祝辞をいただき、その後、洋上救急制度創設の立役者で、洋上救急制度創設前の昭和57年4月、当時の「宮城外洋帆走協会」の山形医師からボランティアベースの「宮城県洋上救急医療支援協議会」設立にまつわる思い出の披露があり、そののち、国土交通省海事局長の乾杯のご発声により祝賀会が盛大に執り行われました。



名誉総裁表彰を受章された各病院の代表者



佐藤雄二海上保安庁長官ご挨拶



山形淳医師による当時の思い出披露



国土交通省海事局長坂下広朗氏による乾杯のご発声



中央洋上救急支援協議会重義行会長による中締め



- 01 名誉総裁 年頭挨拶
- 02 公益社団法人 日本水難救済会 会長 年頭挨拶
- 03 海上保安庁長官 年頭挨拶
- 04 公益社団法人 日本水難救済会 理事長 年頭挨拶
- 05 特集 洋上救急制度創設30周年記念式典を開催
- 10 連載 マリレスキュー紀行  
海の安全安心を支えるボランティアたちの群像  
鹿児島県水難救済会 瀬戸内救難所 / 奄美市救難所笠利支所
- 16 全国地方救難所のお蔭元訪問  
ニッポン港グルメ食遊記【瀬戸内救難所】
- 17 青い羽根募金活動レポート2015  
平成27年度「青い羽根募金」の状況 / 広報・周知活動 / 青い羽根募金支援自販機の設置状況
- 21 水難救済思想の普及活動レポート
- 24 マリレスキューレポート  
Part1 救難所NEWS 海難救助訓練ほか / 水難救助等活動報告  
Part2 洋上救急NEWS 洋上救急活動報告 / 洋上救急慣熟訓練 /  
洋上救急制度創設30周年を迎え、これまでにご支援を受けた  
関係者の皆様に「記念盾」を贈呈
- 34 レスキュー41～地方水難救済会の現状(シリーズ③)  
伊豆地区水難救済会 / 若手県水難救済会
- 38 新設救難所の紹介
- 39 MRJ-フォーラム  
公益社団法人 日本水難救済会 平成27年度第2回理事会開催 /  
「海上保安フェスタ2015 in 横浜」へ (特) 神奈川県水難救済会の救助船が参加 /  
(特) 長崎県水難救済会 橋本東部救難所南串山支所の救助員が「紅綬褒章」を受章するとともに、  
内閣総理大臣からも感謝状を頂きました /  
京都府水難救済会が京都府と「船舶による輸送等災害時応急対応に関する協定」を締結
- 41 平成27年における日本水難救済会 会長表彰受章者一覧
- 43 MRJ 互助会通信
- 46 編集後記

表紙：鹿児島県水難救済会 瀬戸内救難所 / 奄美市救難所笠利支所

写真：珊瑚礁の広がる土浜海岸に昇る朝日



連載 マリレスキュー紀行

## 海の安全安心を支える ボランティアたちの群像

鹿児島県水難救済会 瀬戸内救難所 / 奄美市救難所笠利支所

▲玉石の敷き詰められたホノホシ海岸

### 豊かな島の自然の恵みを楽しみつつ、 その厳しさも懐深く受け入れる海人たち

取材協力：鹿児島県水難救済会 瀬戸内救難所 / 奄美市救難所笠利支所



#### 自然の楽園の玄関口で、 海の安全を守る

鹿児島から南へ約380km。太平洋と東シナ海を分ける薩南諸島のほぼ真ん中に浮かぶ奄美大島は、国内の離島の中では沖縄本島、佐渡島に次ぎ3番目に大きな島。年間を通して温暖で雨の多い亜熱帯海洋性気候が豊かな自然を育み、東洋のガラパゴスと呼ばれるほど多様な生態が息づいている。日本で2番目に大きいマングローブの原生林や、国の特別天然記念物のアマミノクロウサギはつとに有名だ。

自然が生み出した景勝地も枚挙にいとまがない。百聞は一見にし

かず。奄美大島北部のあやまる岬で太陽の光の当たり方で千変万化する海を一望すれば、誰もがブルーエンジェルと呼ばれるその美しさに息を飲むだろう。

そうした奄美大島の多様で固有性の高い亜熱帯の生態系や優れた景観、さらには独特の地史は、世界自然遺産の登録基準を満たす日本の資産であると政府によって選定され、現在、平成29年(2017)夏に開かれる国連教育科学文化機関(ユネスコ)の国際会議で、沖縄と連名での登録が目指されている。リスト入りを果たせば、国内では、白神山地や屋久島などに続き5番目の登録地となり、今後さらに島への注目が集まることは確

実だ。

今回訪れたのは、そんな発展著しい自然の楽園で、海の安全を守る瀬戸内救難所と奄美市救難所笠利支所。瀬戸内救難所のある大島郡瀬戸内町は、空港から車で2時間ほどの島の最南西端に位置し、フェリーの発着港もあり、いわば南の海の玄関口。一方の笠利支所は、奄美大島の北部に位置し、空の玄関口の奄美空港がある笠利地区を拠点としている。ともに奄美大島の動脈ともいえる要所だ。

島が楽園であり続けるために。豊かな自然とともに暮らし、その厳しさも知る救助員たちは、いかに海の脅威に向き合っているのか。その強い思いを聞いた。





## 瀬戸内救難所

▲瀬戸内漁業協同組合のある古仁屋漁港にて(左から泰江幸雄救難所班長、鎌田愛人救難所長、柳沢良裕救助員)

### 瀬戸内の豊かな海の恩恵に与る

奄美大島の最南西端に位置する瀬戸内は、リアス式海岸の水深のある入り江を利用した養殖業が盛んな地域。なかでもクロマグロの養殖は、全国シェアの半分を占めるほどだ。大島海峡には近畿大学水産研究所と瀬戸内漁業協同組合が共同で設立した奄美水産養殖科学センターもある。水産業以外にも、ダイビングや釣り、サーフィンの名所でもある瀬戸内には、シーズンには多くの観光客が集まる。

この海産資源豊かな瀬戸内の海の、安全と安心を支える瀬戸内救難所で、所長と2人の救助員に話を聞いた。

### 経験が必須の瀬戸内の海での救助

現在、瀬戸内救難所の所員数は194名、管轄エリアは、大島海峡を挟んで加計呂麻島、請島、与路島の有人3島を含んだ海域、総面

積240平方キロメートルに及び沿岸、56の集落。この広大なエリアを古仁屋海上保安署と連携して救難活動に取り組んでいる。

今回話を聞いたうちの一人の泰江幸雄さんは、現在は漁業を営んでいるが元は瀬戸内の消防署職員、前職でも数々の海難事故において救助や捜索を行った、まさに瀬戸内救難所の生き字引のような人だ。泰江さんは「瀬戸内の海はリアス式海岸で、この海に長年携わっている人じゃないと潮が上手く読めない」という。事故の場所によっては潮を読めないと近づくことすらできないこの海におい



▲鎌田愛人瀬戸内救難所長(瀬戸内町長)



▲泰江さんの船は海上保安部指定の安全パトロール艇

て、海上保安署からの信頼も厚い。いざ救助が必要になると、救難所で海図を広げて潮の流れを計算し救難所員に指示を出すこともある。75歳になった今でも、現場に出動できる状況であれば率先して救助や捜索に向かう。

前職の経験は現場での対応にも活かされている。基本的には捜索がメインの救難所の活動だが、漁に出ていた船から無線で救助要請が入ることもある。エンジントラブルだけでなくやっかいな場合には何らかの怪我人がいることもある。「一度なんかは救助に行ったら、釣り糸が指に絡まり骨まで



▲瀬戸内救難所班長 泰江幸雄さん

の見えることもあったね。船のスクリューに膝を巻き込んだのもあった」と泰江さん。上肢と下肢ではやり方の違う止血のやり方や、箇所が変わる骨折の処置、ときには40分間心肺蘇生を行ったこともあったという。大抵の応急処置に対応できる泰江さんに救われた人は瀬戸内に少なくない。

### 救助にもっとも大切なのは日頃の訓練

そんな泰江さんでも救助に出るときは、いつも怖いという。「いつだって同じ海はないし、応急処置だってやり方を忘れている場合もある」と泰江さんは、訓練に積極的に参加しているという。救助訓練は、もやい銃の発射やロープの結索、心肺蘇生と多岐にわたる。

泰江さんの背中を見て救助員に志願する後人が多いのも瀬戸内救難所の強みだ。加計呂麻島でダイ



▲高知山展望台より見下ろす大島海峡。奥に加計呂麻島が見える。



▲漁業協同組合に掲げた「ライフジャケット着用推進漁業協同組合」の看板

ビングをメインにしたペンションを営み、今回の取材にご自身の船で来てくれた柳沢良裕さんもその一人。柳沢さんはかつて航空会社勤務、奄美の海に魅せられた移住者だ。まだ出動経験は無いとのことだが、広大な瀬戸内救難所の管轄エリアにおいて、場所によっては古仁屋海上保安署から救助に出るとどうしても時間がかかってしまうエリアもあり、離島の救助員は瀬戸内救難所の要でもある。

「こんなに経験豊かな泰江さんが怖いと感じるのが救助活動。瀬戸内の海を愛する者として救助員になった以上、いつか出動することもあると思いますが、泰江さんを見習い、できる限りのことはやりたいので訓練には力を入れている



▲瀬戸内漁業協同組合に無線。ここに救助要請の連絡が入る

ます」と柳沢さんの意気込みにも熱いものがあった。

### 瀬戸内のチームワークが活きた奄美豪雨での救援活動

「194名の救助員、消防署、漁協、海上保安署、そして船を持たない人たちは陸から捜索などの協力を行う。この瀬戸内には地域としての温かい協力体制があるんです」。そう語ったのは瀬戸内救難所の所長の鎌田愛人さん、町長でもある。

この瀬戸内住民の協力体制は海



▲瀬戸内救難所副所長 池田啓男さん(瀬戸内漁業協同組合長)



▲瀬戸内救難所救助員 柳沢良裕さん





▲古仁屋港にある大きなクロマグロのオブジェ

の事故だけでなく、天災でも発揮されている。死者も出た平成22年(2010)の奄美豪雨など、奄美大島は何度も豪雨被害を受けている。平成27年(2015)にも「50年に一度の大雨」に見舞われた瀬戸内は、土砂崩れや道路冠水でいくつかの集落への交通道路が完全に閉ざされた。そのとき活躍したのが海路、つまり救難所をはじめとする海で培った瀬戸内のチームワーク、集落へ船を出し救助に向かい、物資運搬を行ったのだ。

### LCCの効果と 世界自然遺産登録

平成26年(2014)7月よりANA系列のLCC、バニラエアの直行便の就航によって観光客にとってますます身近な旅先となった奄美大島。「観光客が増えればそれだけ事故も増えるもの、海難事故への訓練と連携の強化をこれからも大



▲瀬戸内町の「海の救急車」救急艇「おとり」

切していきたい」と語った鎌田所長。さらに今後予定されている世界自然遺産登録で、世界中からの集客も見込まれる。

瀬戸内救難所では事故を未然に防ぐ活動にも力を入れている。「一番効果的なのは、ライフジャケットの着用」という泰江さんは、できるだけ「声掛け」を行うようにしているとのことだ。ライフジャケットを着ていることで、生存確率は何倍も上がる。漁業協同組合でも「ライフジャケット着用推進漁業協同組合」の看板を掲げ、先ず組合員から着用の範を示しているのだ。

### 瀬戸内の海の美しさと 厳しさを次世代に伝える

子どもたちへ海の大切さと怖さ



▲ホノホシ海岸の石は荒波によりカドがない



▲土砂の崩れの山肌、豪雨の爪痕が残る

を教えるのも瀬戸内救難所の大きな使命だ。平成26年度(2014)は古仁屋海上保安署と合同で、地域の小中学校10校537名の生徒を対象に「若者の水難救済ボランティア教室」を行った。かつてこの地域には泰江さんや鎌田所長も指導にあっていた「奄美瀬戸内町海洋少年団」という組織があった。それはいうなれば海のボーイスカウト組織で、途絶えては復活を繰り返し、現在、少子化や学業と部活動の影響で休団中とのこと。救難所としては団の再結成を望んでいるようだ。

「教えなきゃいけないことはたくさんある」という泰江さんに、鎌田所長が頷く。この瀬戸内の海の妙々たる美しさと豊かさ、そこに潜む厳烈なる恐ろしさと厳しさ、それを伝えることができるのは、この海で生きてきた彼らたちだけなのだ。



▲白砂のヤドリ浜



## 奄美市救難所 笠利支所

▲奄美リゾート「ばしゃ山村」のビーチにて(左から救助員の渡辺松尚さん、山下一美さん、長 誠和さん)

### 奄美の玄関である笠利では 様々なマリレジャーが楽しめる

笠利地区には海上保安署がないのでこの海で何かがあった場合、笠利から一番近い奄美海上保安部から救助の船が出る。いくらサイレン鳴らして飛ばしても30~40分はかかる。海の事故の場合、何よりも時間が大切なときもある。このタイムラグを埋めるのが笠利支所の重要な使命の一つだ。

奄美大島の北部、奄美空港のある笠利町は、あやまる岬や奄美パークなどの観光名所や大型の



▲救助員の山下一美さん

リゾートホテルも数多く、様々なマリレジャーを楽しむ奄美旅行の拠点となるエリア。土浜海岸、用安海岸、土盛海岸などの奄美大島を代表する美しいビーチは、こうしたマリレジャー客の数に比例して、海難事故も増加傾向にある。笠利支所では、普段マリレジャーの仕事に就いている救助員が多いのもそういった背景がある。今回取材した笠利支所の救助員は、ダイビング教室経営の渡辺松尚さん、釣り船船長の山下一美さん、水上バイクインストラクターの長誠和さんの3名。それぞれが自分の職種を活かしたボランティア活動を行い、笠利の海の安全と安心を支えていた。

### “海水浴場がない”奄美大島のリーフ内で活躍する水上バイク

奄美大島には海水浴場としてブイやロープで仕切られている浜辺はひとつもない、いうなれば海に入れそうな場所はどこだって海水



▲山下一美さんの釣り船

浴場になる。特に笠利のリーフは多くが遠浅で、普段は大抵の場所で海遊びが楽しめる。ほとんどの観光客は綺麗な海を求めて奄美に来るが、運悪く天候が悪い場合もちろんある。「そんなとき事故が起こることが多いんです。観光客は折角奄美に来たんだから海に入りたいと思いますよね。例えば台風が近づいていたり時化していたりして、地元の人は絶対に海に入らない日でも、ちょっとなら大丈夫って考えちゃうんでしょね」と語る長さん。水上バイクで救助に向かうことが多い長さんは、救助員になる前から、普段の仕事でも





▲救助員の長 誠和さん

海上で溺れかけた人が見えたら近寄って、これまで何度もバイクに乗せて浜に連れて帰ったことがあるという。「こちら辺のリーフは遠浅でも珊瑚が入り組んでいたりしているので、何かあっても船では入れず、人力では届かない場合もあります。水上バイクだからできる救助もあります」と長さん。



▲救助員の渡辺松尚さん

という。特に潜って捜索することが多い渡辺さんの場合、発見できてもそれが生存者であることは少ない。渡辺さんはいわゆる1ターンの組、平成元年(1989)に奄美に移住し、その2年後平成3年(1991)に初めて捜索活動に参加した。それは連絡の途切れたイカ釣り漁船捜索。奄美の一番寒い時期だった。3日間潜り、海中で船のタンクや本体を発見したが、その3日間の捜索で乗っていた人は見つけれなかった。捜索は一旦打ち切りになった。その夜、不明者の家族の方に「早く上げてあげてください」と泣いて懇願されたという。その家族の悲しみは渡辺さんに心に刺さった。「それまでは僕にとって奄美の海は綺麗でただただ楽しい場所だった、けれどいきなり、この海には巨大な恐ろしさも共存していることを突き付けられた」と渡辺さんは語る。その後率先してダイビングによる捜索を行ってきた渡辺さんは、これまで何度もこの海で、遺族の悲しみを拭ってきた。

### 捜索に向かう船 ダイバーは潜って捜索する

一方、普段ダイビングとフィッシングの仕事に就く渡辺さんと山下さんの救助活動のメインは船を使った捜索になる。対応できる救助要請には船を出して文字通り捜索に向かうのだ。平成27年(2015)秋の酷く時化た日、渡辺さんと山下さんは2人で捜索に向かった。山下さんが操縦し渡辺さんが潜る担当のチーム編成。そのときの捜索では波間に俯せで漂う遭難者を発見したが、うねりが強く引き上げてあげられなかった



▲名所の土盛海岸は事故も多い



▲潜水具を確認する渡辺松尚さん

### 安全と安心はレジャー産業 のファーストプライオリティ

年々観光客が増加している笠利地区、行政による地域対応力の強化が図られているのは言うまでもないが、何よりもこの海で動きこの海を愛する人々によって、この海の安全と安心はこれからも支えられていくことだろう。

渡辺さんは、行政と最前線の救助員たちが「どうしたら迅速に救助を行えるか」を話し合う機会の拡大を模索している。「ハイシーズンになると、目の前で事故があればそりゃ別だけど、働いている人はお客さんを置いて救助に向かえない、今後そんな場合もいっぱい出てくると思う」と語る長さんだが、救助訓練に積極的に参加して応急処置のスキルアップをしていきたいという。「折角この島に来たんだから、誰もが楽しい思い出をたくさん持って帰ってほしい」と願う山下さんは、まずは自分の船が事故を起こさないように、日々気をつけることが大事だという。

さらに、笠利支所の活動とは別で、5年前にはライフセービング協会も発足、地域としてAEDの設置や講習も積極的に行われているという。笠利の地には、豊かな海の恩恵に胡坐をかかなく、それぞれがこの海のために自分ができることを模索する人々がいる。それは笠利の豊饒の海に匹敵する、地域としての財産だ。



▲水上バイクを整備する長さん

全国地方救難所のお膝元訪問

## ニッポン港グルメ食遊記



### 奄美の豊かな海の幸を地元感覚で楽しめる 地産地消の港町の食堂

空港のある笠利町が奄美の空の玄関口なら、瀬戸内町の古仁屋港は奄美大島の海の玄関口のひとつ。与路島や徳之島などの離島へのフェリーの発着ターミナル港である古仁屋港には、島唯一の海の駅「せとうち海の駅」があり、観光客でにぎわう観光シーズンはもとより、一年を通して離島や地元の人たちの憩いの場となっている。この海の駅に、手軽に奄美の海の恵みをいただくことができる「瀬戸内漁港直売店 海力」が、平成27年12月11日にオープンした。

店内のウィンドウにはその日獲れたばかりの新鮮な魚介類が狭狭と並ぶ。「これでも今日は海が時化てたから少ないほうだよ」と声を掛けてくれたのは調理担当の時長一樹さん。ここでは、選んだ魚をその場で捌いてもらい、横の食堂でいただくことができる。せっかくなので時長さんのおススメの「黄ホタ」を刺身にしてもらう。活きのいい地産の白身は歯応

えが違う、それを奄美の魚と相性抜群の奄美特有の甘い醤油でいただく。聞けばこの「黄ホタ」という魚、都会で食べたら3倍の値段、そもそも減多に出回らない魚とのこと。海力にはもちろん通常のメニューもあり、一番人気の海鮮丼を追加で注文。季節やその日獲れたモノで何を乗せるかが変わるといふ海鮮丼は、取材当日はキハダマグロ、イラブチ、ソデイカなどが乗っていて、言うまでもなくどれも新鮮で美味しかった。さらに「横に歩けない」アサヒガニという珍しい蟹の味噌汁も注文。これがまた産地以外ではなかなか食せない一品、肉厚の蟹は器からはみ出し、味噌汁にはあまりにも贅沢でボリューム満点だった。

奄美のいどり豊かな魚を目で楽しみ新鮮な旨みを舌で味わう、ここに来なければ経験できない食の楽しみの詰まった地域の食堂「海力」、瀬戸内町に来たら是非立ち寄ってほしい。

①奄美の港町の食堂には南国らしい極彩色の魚介類が並ぶ。漁港直営、獲れたてなのは言うまでもない。②海鮮丼750円とアサヒガニの味噌汁300円。③調理担当の時長一樹さん。持っているのは今日一番の大物イラブチ。④その場で刺身にしてもらった黄ホタはg/190円、このボリュームで760円。



#### 「瀬戸内漁港直売店 海力」

住所 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋大湊26-14 (せとうち海の駅内)  
電話 0997-72-1596  
営業時間 9:30~17:30  
定休日 第2、4水曜日





全国53,000人のボランティア救助員の活動を支援しています  
**青い羽根募金活動レポート2015**

効率的かつ安全な海難救助活動を行うためには、常日頃から組織的な訓練を行うとともに、救命胴衣やロープなどの救難資機材の整備や救助船の燃料等も必要となります。これらに必要な資金は全国的な募金活動によって集められています。

平成27年9月、東京海洋大学海王寮の寮生の皆様により青い羽根募金活動のご協力をいただきました。

**平成27年度「青い羽根募金」の状況**

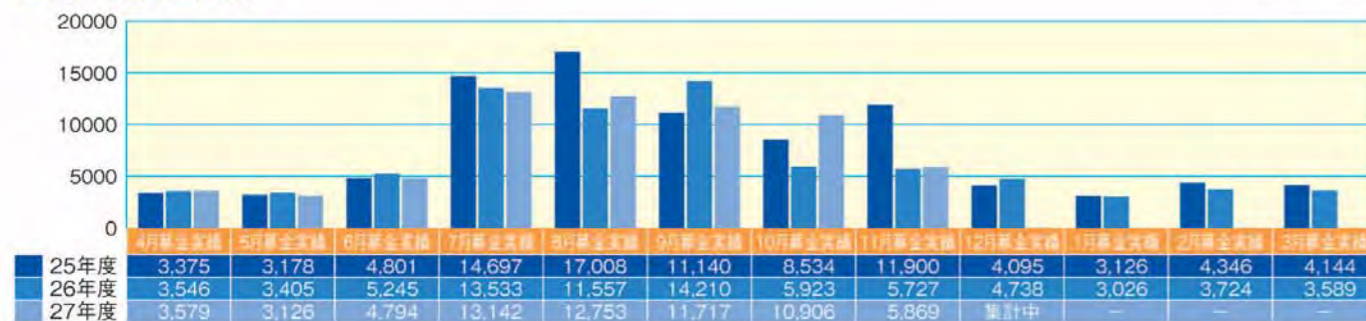
本年度も「海の日」を中心に7～8月の2ヵ月間を「青い羽根募金強調運動期間」と銘打ち、全国道府県水難救済会と協力して積極的に募金活動を実施。全国の多くの皆様から、青い羽根募金の趣旨にご賛同をいただき、暖かいご支援をいただきました。

海上保安庁、防衛省等関係省庁をはじめ自治体、企業、団体等からもご支援をいただきました。特に防衛省の陸上、海上および航空自衛隊の隊員の皆様や、海洋少年団および学校生徒会等の皆様に募金活動への多大なご協力をいただきました。

皆様のご支援により11月（4月から11月末の集計）までに、65,886,978円の募金をいただきました（下図「青い羽根募金実績」参照）。

**青い羽募金実績**

（単位：千円）



**「青い羽根募金」活動にご協力いただき、ありがとうございました。**



**藤沢海洋少年団 様**

平成27年9月、第42回藤沢市民まつりにおいて、藤沢海洋少年団団員により青い羽根募金活動を行いました。

藤沢市民まつりに来られた多くの方々募金に協力していただきました。



**舞鶴海洋少年団 様**

平成27年10月、舞鶴海上保安部に就役した大型巡視船わかさの体験航海で、舞鶴海洋少年団団員22名が青い羽根募金活動を行いました。

一般公募で乗船された多くの方々募金に協力していただきました。

**「青い羽根募金」にご協力いただいた企業、団体等に感謝状を贈呈**



**航空自衛隊入間基地 様**

平成27年10月、航空自衛隊入間基地において青い羽根募金に多大なご協力をいただいた中部航空警戒管制団司令兼入間基地司令 山本様（中央）に、日本水難救済会 向田理事長から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



**SGホールディングス株式会社 様**

平成27年10月、SGホールディングス株式会社東京事務所において、同社取締役 漆崎様（右）に、日本水難救済会 上岡常務理事から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



**株式会社 港屋 様**

平成27年10月、公益社団法人日本水難救済会において、青い羽根募金に多大なご協力をいただいた株式会社港屋代表取締役社長 坂田様（右から2人目）に、日本水難救済会会長感謝状を贈呈しました。



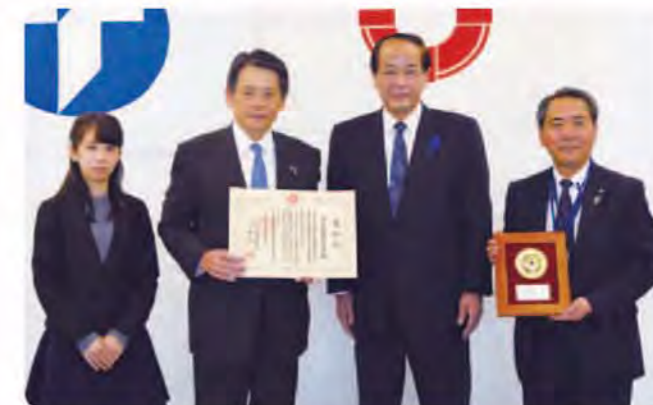
**海上自衛隊佐世保地方総監部 様**

平成27年11月、海上自衛隊佐世保地方総監部において、佐世保海上保安部長 藤本様お立会いのもと、青い羽根募金に多大なご協力をいただいた同総監部防衛部長 石橋様（中央）に、特定非営利活動法人長崎県水難救済会 福田副会長から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾が伝達されました。



**若築建設株式会社 様**

平成27年12月、若築建設株式会社東京本社において、同社代表取締役社長 五百蔵様（右から2人目）に、日本水難救済会 向田理事長から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。



**東洋建設株式会社 様**

平成27年12月、東洋建設株式会社本社において、同社代表取締役社長 武澤様（左から2人目）に、日本水難救済会 上岡常務理事から日本水難救済会会長感謝状及び事業功労有功盾を贈呈しました。





### 海上保安庁音楽隊定期演奏会ご来場の皆様

平成27年11月、海上保安庁音楽隊第22回定期演奏会において青い羽根募金活動を行いました。

本年度から同演奏会は、東京ドーム近くの「文京シビックホール」に変更して開催されました。

ご来場の多くの方々が「青い羽根募金」に寄附していただきました。



### 愛知県庁・岐阜県庁・愛知県警察本部の皆様

平成27年11月、名古屋港湾会館において、青い羽根募金に多大なご協力をいただいた愛知県庁様、岐阜県庁様及び愛知県警察本部様に対し、愛知県水難救済会 吉川会長から日本水難救済会会長感謝状が伝達されました。

## 命を繋ぐ“輪” ライフリングプロジェクト(救命浮環設置事業)

日本水難救済会及び道府県水難救済会では、岸壁、防波堤における海中転落事故による死者、行方不明者は、海浜事故の約6割を占めていることから、一般人の海中転落事故発生のおそれのある桟橋及び海浜公園に救命浮環を設置する「ライフリングプロジェクト(救命浮環設置事業)」を展開しております。



### 琉球水難救済会

公益社団法人琉球水難救済会は、四面を海に囲まれた日本最西端に位置する沖縄県を活動の舞台としています。

沖縄県は、日本でも訪れたい県で常に上位にランキングされ、年間を通じて国内外から多くの観光客が、エメラルドグリーンに輝くビーチ等を目当てに訪れています。

しかし、これらマリレジャー活動に伴う海浜事故も多く発生していることから、琉球水難救済会では、地元消防等からの要請を受け、海中転落事故の予想される港や防波堤などにライフリング(救命浮環)を設置することにより、事故を目撃した人が「救助員となって」ライフリングを投げ入れ、遭難者を救助する『命を繋ぐ“輪”ライフリングプロジェクト』を推進しています。

ライフリングの設置場所は、海上保安庁や自治体、消防からの情報をもとにして決めており、多くの方から寄せられた「青い羽根募金」を原資としてライフリングを購入し、順次設置しております。

琉球水難救済会浅野常務理事は、「今後設置箇所を増やして県民や観光客の水による犠牲者をゼロにしたい」と意欲的に話していました。



「青い羽根募金」で整備したライフリングを示す 琉球水難救済会 浅野常務理事

## 青い羽根募金支援自販機設置のお願い

民間ボランティア救助員の献身的な捜索救助活動を支えていくためには、海上における厳しい自然環境と一刻を争うような事態の中でも安全にして迅速かつ的確に捜索救助を実施するために必要な各種研修訓練をはじめ、基本的な救難用資器材の整備や救助船の運航等に必要最小限の諸経費をできるだけ十分かつ安定的に確保していくことが不可欠であります。

こうした全国津々浦々で活躍する民間ボランティア救助員の救難活動を支えているのが、一般市民や企業から寄せられる「青い羽根募金」です。

「青い羽根募金」は、公益社団法人日本水難救済会のホームページからインターネット募金する方法や「青い羽根募金」口座に振り込む方法等のほかに、青い羽根募金支援自販機で清涼飲料水を購入することにより、売上金の一部が自動的に「青い羽根募金」として寄附されます。

日本水難救済会では、「青い羽根募金自販機設置のお願い」チラシにより全国的な普及促進を図っております。皆様のご支援ご協力をお願い致します。

全国で **621台** 設置!

青い羽根募金支援自販機の設置にご協力いただきありがとうございました



### 東洋建設株式会社 様

公益社団法人 日本水難救済会では、会報誌「マリネスキュージャーナル」等で青い羽根募金支援自販機の設置にご協力して下さる団体、企業、個人様を募集していましたが、平成27年8月東洋建設株式会社本社に5台の「青い羽根募金支援自販機」を設置していただきました。

### 青い羽根募金支援自販機設置のお願い

**趣旨** □ 公益社団法人日本水難救済会及び海防部道府県の地方水難救済会では、我が国沿岸における水難事故に際し、ボランティアベースで行っている捜索救助活動等を支えるため、青い羽根募金活動を展開し、広く国民の皆様からのご寄附をお願いしております。この青い羽根募金支援自販機は、清涼飲料水を購入することにより、売上金の一部が自動的に「青い羽根募金」として、寄附されるもので、官公署や法人・個人の皆様に設置場所の提供をお願いしております。

**募金の仕組み** □ 「青い羽根募金支援自販機」の設置場所を提供していただくだけで、「青い羽根募金」に協力できます。

**設置場所の提供** □ 設置場所の提供、自販機・商品の提供、運営管理

**契約** □ ボトラー

**設置・運営** □ 自販機売場、資源回収BOXはボトラーで無料提供します。  
 □ 基本的に自販機売場での売上金の20%が青い羽根募金として水難救済会に寄附されます。(※設置先により寄附される割合が異なります。詳しくは最寄りの下記水難救済会に問合せ下さい。)  
 □ 設置に関わる費用はボトラーが負担します。  
 □ 自販機売場のオペレーション(製品の補充・売上金の回収)、クレーム処理は全てボトラーが行います。  
 □ 空き容器的回収、周辺の清掃はボトラーが行います。

**デザイン** □ 基本的に日本水難救済会が定めたデザインとします。

**問合せ先** □ 公益社団法人 日本水難救済会 第一事業部  
 □ 〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地 海事センタービル  
 TEL 03-3222-8066 FAX 03-3222-8067



### 鹿島建設株式会社 様

本会の「青い羽根募金」事業にご賛同いただいた鹿島建設株式会社様のご協力により鹿島建設株式会社本社に1台「青い羽根募金支援自販機」を設置していただきました。



# ボランティアスピリットの継承のために 水難救済思想の普及活動レポート



公益社団法人日本水難救済会では、海事思想や水難救済会ボランティア思想を啓蒙することにより将来の後継者になってもらえるよう、青少年を対象に、海上保安官や消防署員、ライフセーバーの方々を講師に招いて全国各地で水難救済ボランティア教室を展開しています。

茨城県水難救済会 古河市駒羽根小学校5、6年生の皆さん

## 若者の水難救済ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は、平成13年度から始まった事業で、小中学校や高校生等の若者に海の知識を深めてもらうとともに、海に親しむ機会を提供し、実地体験を通じて救命技術を習得してもらうことを目的としています。

教室では、海の安全意識の向上を図るとともに、水難救済ボランティア思想を啓蒙しています。今年度も国土交通省、海上保安庁、消防庁から後援を受け、全国各地で開催しています。

## 公益社団法人 日本水難救済会

### 東京都昭島市の小学校で水難事故発生時の対応説明とボールや救命胴衣を着用し、背浮きなど体験

平成27年9月4日午後、東京都昭島市立つつじが丘南小学校のプールにて、同校児童（5年生・6年生）73名と担任の教職員4名が参加者して「若者のボランティア教室」を開催した。

本会職員2名のほか、講師として東京海上保安部から職員3名を招き、「若者のボランティア教室」の概要説明ののち、講師紹介に引き続き、水難事故発生時の対応及び自己救命索の説明と準備運動、水慣れ、そして、ペットボトルを使用した背浮き体験、ボール及び救命胴衣等を使用した背浮きやペットボトルを使用した救助方法の実演などを体験した。

当日は、気温27度、水温26度、曇空で途中でわか雨もあり、生憎の空模様であったが、参加した児童たちは元気いっぱい、にぎやかながらも真面目に取り組んでいた。

最後に、校長先生から「南小と北小が来年から統合されるが、来年もお願いしたいと思っている。夏休み前に他校の教諭を含めた教室を開催出来たらと思っている。また、本日参加した5年生及び6年生による「青い羽根募金活動」の実施を考えている。」との言葉がありました。



ペットボトルや救命胴衣を使用した背浮き体験

## 茨城県水難救済会

### 救命胴衣着用とペットボトル等による溺者救助方法体験

平成27年7月29日、茨城県古河市立駒羽根小学校のプールにて、同校児童（5年生・6年生）90名と教職員7名が参加者し、講師に茨城海上保安部から職員5名を招き「若者のボランティア教室」を開催した。

教室は、「着衣泳」と「救命器具に代用できる物の紹介及び取扱」について説明ののち、プールでは救命胴衣着用体験と救助デモンストレーションが行われた。

参加した児童は、海や川等での遊泳に伴う危険性を学習するとともに、着衣泳、ライフジャケット着用及びペットボトル等による溺者救助方法を体験し、水難事故での対応策及び命の大切さを知ることができ、大変有意義なものとなった。



ペットボトルで背浮きを体験

## 広島県水難救済会

### プールでの水の流れや手動膨張式救命胴衣の装着体験

平成27年7月16日、広島市内のほぼ中心地にあり、世界文化遺産の「原爆ドーム」のすぐ近くにある広島市立本川小学校のプールにて、同校児童（5年生・6年生）101名と教職員4名が参加し、講師に広島海上保安部から職員6名を招き「若者のボランティア教室」を開催した。

同校での若者ボランティア教室は、今回で3回目となり、教室は5年生と6年生を2回に分けて実施した。

教室では、記念品贈呈（ライフライン）ののち、海や川での注意事項を説明し、プールでの水の流れ体験やペットボトルを使った背浮き、手動膨張式救命胴衣の装着体験などを実施した。

児童たちは、着衣での背浮き体験に何度もチャレンジし、背浮きが出来ると楽しそうにはしゃいでおり、児童たちが自ら命の大切さを再認識した一日でした。



着衣泳で背浮きを体験

## 公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

### 着衣泳ぎとライフジャケット装着での実技体験

平成27年9月4日、苫小牧市厚真町立厚真中央小学校プールにて同校児童（5年生・6年生）40名と担任の教師4名が参加して、講師に浜厚真救難所救難所員1名と苫小牧海上保安署から職員7名を招き、「若者のボランティア教室」を開催した。

教室では、プールサイドでの監視要員3名を置き、



着衣泳で背浮きを体験

「着衣泳」の実技指導と「ライフジャケット」の着用体験等を行った。

参加した児童は、昨年も夏休み前に受講していたことから、着衣泳について進展が見られ、楽しみながらも真剣に取り組む姿勢が見られた。



ライフジャケットの装着体験



## 新潟県水難救済会

## 雨の中で浮力確保の練習や救命胴衣着用体験

平成27年7月8日、新潟市立小須戸中学校のプールにて、同校生徒（2年生）94名と教職員4名が参加者し、新潟県水難救済会職員1名のほか講師に新潟海上保安部から職員4名を招き、「若者のボランティア教室」を開催した。

教室では、小・中学校の夏休み中の海浜事故発生状況と事故防止について講義が行われたほか、プールにて浮力実験、背浮きやペットボトルを使用した浮力確保の練習、救命胴衣着用体験、落水時の対応等の展示訓練を行った。

当日は、朝から大雨が降り、体育館での座学も考えていたが、生徒の強い要望もあり、悪天候の中、ボランティア教室を開催することとなったが、予定通りのプログラムで効率的に実施された教室に、参加した教師等から賞賛の声とともに、校長先生から、「海上保安官によるこの講習を毎年実施できないか」等のお言葉があり、講師たちも満足の様子であった。



プールにて浮力体験をする生徒たち



救命胴衣の着用体験

## 大分県水難救済会

## ◆日出町立 大神中学校

## 心肺蘇生法及びAEDの使用方法などを習得

平成27年7月16日、夏休み及び海水浴シーズンを前に、水の事故及び事故時の対処など修得することを目的として、大分県速見郡日出町立大神中学校の体育館及びプールで同校の1年生から3年生108名と教職員4名が参加し、大分海上保安部の職員2名と大分着泳会から2名の講師に招き「若者の水難救済ボランティア教室」が開催された。

当日は、台風の接近に伴う強風圏内での開催となり、海上保安部潜水士によるライフジャケット着用実演の中止など内容の一部変更や時間の短縮等を余儀なくされた。

教室では、講師から大分県水難救済会についての説明がなされるとともに、心肺蘇生法や、AEDの取り扱い、着泳泳実習などが行われたが、心肺蘇生法や、AEDの取り扱いでは生徒たちは日頃馴染みのない内容であり消極的な点が見られたものの、着泳泳や救急法などを身をもって体験したことは、水の事故及び事故時の対処などについて意義のあるものであった。

## ◆大分市立 三佐小学校

## 着泳泳やライフジャケット着用で水の事故防止

平成27年7月24日、夏休みの海水浴シーズンを迎え、水の事故及び事故時の対処など修得することを目的として、大分市立三佐小学校のプールで同校の1年生から6年生の児童181名と保護者35名が参加し、大分海上保安部の職員2名と大分着泳会から2名の講師に招き「若者の水難救済ボランティア教室」が開催された。

同校区は大分港の臨海部に位置し、また、2つの川に挟まれていることなどを考慮すると、子供たちには早い時期に水の事故防止や事故への対処法などの知識を育む取り組みは重要であり、夏休み当初に子供たちが身をもって体験・学習したことは有意義であった。



講師から心肺蘇生法・AEDの取扱を学ぶ中学生



ペットボトルにより背浮きを体験する中学生



「若者のボランティア教室」に参加した三佐小学校2年生の皆さん



ペットボトルで背浮き体験をする小学生

## 海難救助訓練ほか



平成27年度は、現在までに全国37の地方水難救済会において延べ251の救難所・支所から4,056名の救難所員が参加して指導者研修及び実地訓練などが行われました。

山形県水難救済会による平成27年度酒田市水難救助合同訓練の様相

## ■山形県水難救済会

## 「漁船が突風にあおられて防波堤に衝突した」との想定で酒田市水難救助合同訓練を実施

平成27年7月4日午前、山形県酒田市の大浜海岸において、水難救助業務を円滑に実施し、水難事故発生時の即応体制の確立を目指す目的で、酒田市主催により水難救助合同訓練を行った。

訓練は、酒田海上保安部及び酒田地区広域行政組合消防本部の指導を受け、酒田、宮海及び袖浦の3つの救難所から救難所員計46名が参加した。

合同訓練開始にあたって本間酒田市長（当時）の訓示、来賓祝辞などが行われ、心肺蘇生法、救命索発射器操法訓練を実施した。その後『酒田漁業無線局からの連絡によると、酒田港に寄港しようとした漁船A丸（5t）が、突風にあおられて防波堤に衝突。船は浸水・機関停止し、航行不能となり救助を求めている。乗組員1名が転倒により意識不明の様相』との想定により総合海難救助訓練を実施した。



訓練開始時に整列する救難所員等



訓練を視察する酒田市長(当時)



救命索発射器操法訓練の様相

心肺蘇生法訓練の様子



■熊本県水難救済会

富岡湾内で火災船消火訓練と人命救助訓練等を実施

平成27年9月27日、天草郡苓北町富岡フェリー発着所岸壁及び公民館において、苓北分署署員の指導により富岡救難所員37名が参加し、救急救命訓練及び救命索発射器取扱訓練を行った。そのうち、『高速船苓北丸（乗組員3名）が茂木向け航行中、富岡湾内にて機関室から出火、自力で消火にあたったが火勢が強く消火不能。又、消火作業中に乗組員1名が火傷を負っている。』との訓練想定により、消火ポンプを船により火災船まで搬送し、消火作業を実施するとともに、怪我人をゴムボートにより陸まで搬送する救出訓練を実施した。



落水者の救助訓練の様様



救急救命措置(心肺蘇生法)訓練



消火ポンプを移送中の救難所員

■新潟県水難救済会

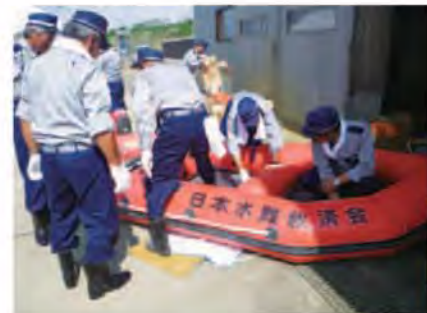
日頃からの備え！ 救難資器材の点検

平成27年7月28日、新潟市西区五十嵐の新川漁港岸壁において、新潟海上保安部の指導のもとで、五十嵐救難所の所員14名が参加して、基本動作訓練や保有している救難資器材の点検を行った。

各器材の現状確認と不良箇所の有無を確認するとともに、救助作業時の使用に支障を生じないことを確認し、その後、救命索発射器の慣熟訓練の実施に合わせて、器材の性能を確認したほか火薬類の保管及び取扱について確認を行った。



基本動作訓練の様子



救助用ゴムボートや救命索発射器の現状確認



救命索発射器の操法訓練

■公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

平成27年度十勝三救難所合同訓練を実施

平成27年6月29日、広尾町十勝港において、十勝三救難所合同訓練が広尾海上保安署の指導を受け、広尾、大樹及び大津の3救難所の所員39名が参加して行われた。

訓練は、大会長広尾救難所亀田所長のもと、基本動作及び救難技術訓練として、ゴムボート操法、救命索発射器操法及び心肺蘇生法訓練のほか、火災船消火訓練として岸壁から火災船に見立てた沖合の漁船に対し、消火ポンプによる放水が行われた。



ゴムボート操法訓練



海難防止呼びかけ標語



視閲の様子



火災船救助訓練

■特定非営利活動法人 秋田県水難救済会

平成27年度海難救助訓練大会を実施

平成27年7月11日、秋田県山本郡八峰町八森・八森漁港において、岩館救難所ほか9救難所から救難所員計243名及び秋田海上保安部、秋田県、八峰町、秋田県漁業協同組合、能代山本広域市町村圏組合消防本部、八峰町消防団、能代警察署並びに日本赤十字秋田県支部などの協力機関から58名が参加し、第49回目となる海難救助訓練大会を秋田県危機管理監、秋田海上保安部長等の来賓を招いて開催した。

訓練は、競技訓練として心肺蘇生法、もやい綱投てき、救命索発射器操法及びゴムボート操法の4種目について行われ、能代山本広域市町村圏組合消防本部による心肺蘇生法のデモンストレーション、秋田海上保安部による救命索発射器操法の展示が行われ、合同訓練では、秋田海上保安部等参加協力機関と合同で、火災船消火訓練及び人命救助訓練が行われた。



人命救助訓練の様子



火災船消火訓練の様子



ゴムボート操法競技



# 水難救助等活動報告

平成27年度下半期に報告のあった、水難救助活動の事例を紹介します。

## 1 風浪を受けて転覆した漁船船内から自力で脱出し、船底に這い上がった漁船員を救助

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター  
えさん救難所古武井支所

平成27年6月6日午前8時20分頃、北海道函館市古武井町山背泊漁港西方沖合約1海里付近で養殖昆布漁をしていた、えさん漁協所属の漁船（0.9トン）が右舷側からの風浪の影響を受け、突然左舷側から転覆、船長が海水温10度の海へ投げ出された。

転覆後、船長は一時船内に閉じ込められたが自力で脱出し、船底に這い上がり救助を待った。

午前8時30分頃、陸上より転覆を目撃した平島明弥（えさん救難所恵山支所救助長）から同救難所事務局（えさん漁業協同組合）に連絡があり、直ちに救難所長から古武井支所救助員に対し出動を指示するとともに同船の付近で養殖施設の作業を行っていた救難所所属の救助船第五海幸丸（総トン数0.7トン）榎船長に連絡を入れ、現場に向かわせた。午前8時35分頃現場に到着した第五海幸丸は船底に掴まっていた転覆船の船長を自船に揚収救助し、負傷していないかを確認した後直ちに山背泊漁港に向かい同船船長を下船させた。



午前8時45分頃、転覆船の曳航作業を救難所所属救助船第五海幸丸、第八成栄丸、第二満丸、信栄丸、マミ丸の計5隻（古武井支所所員等11名）で開始し、午前10時30分頃曳航並びに陸揚げの作業を無事終了した。



転覆船を曳航中の救助船

【救助にあたった救助船】



第五海幸丸



転覆した漁船



転覆船の引き揚げ作業

【曳航作業にあたった救助船】



マミ丸



第八成栄丸



信栄丸



第二満丸



松谷函館海上保安部長表彰を受けた古武井支所長成田八太郎氏（右）ほか

## 2 転覆した磯船の救助

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター  
浜益救難所

平成27年8月23日午前8時24分頃、浜益救難所に「石狩市浜益区群別地先沖合約30メートルにて磯船が転覆、付近の岩場に取り残された乗組員1名の救助のため、救難所員が乗船した僚船（救助船）が向っている。」との連絡が入り、午前8時30分頃、救助船2隻に5名の救助員が乗船して浜益港を出港した。

2隻の救助船が現場に到着したところ、先に現場に到着した他の僚船により乗組員を救助、怪我等はなかった。その後、救助船により該船を曳航、群別港にて他の所員とともに陸揚げし、救助を完了した。



転覆船の引き起こし作業を行う救助員

## 3 パワーボート転覆、4名救助

愛知県水難救済会 衣浦救難所

平成27年11月1日午後3時30分頃、愛知県衣浦港旭硝子前面海域において、パワーボート（4名乗組）が蛇行運転中、右旋回から左旋回をした際、右舷側に傾いたまま転覆、4名が海中に投げ出されたが、該船の後方を航行していたプレジャーボート旭丸が直ちに4名を救助、船内に収容した。

4名は、事故を目撃・通報した汽船Sea-Funから連絡を受け出動した衣浦救難所救助船（若幸Ⅱ）に移乗、救難所まで搬送、怪我等はなかった。（救命胴衣4名全員非着用）

なお、転覆した該船は、衣浦海上保安署巡視艇により保安署まで曳航され救助が完了した。



転覆したパワーボートの救助にあたる救助船や巡視艇



## 4 突風で転覆した漁船の漂流者を救助

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会  
上対馬救難所

平成27年8月31日午後4時30分頃、漁船共進丸（救助船）は、長崎県対馬市上対馬町唐舟志所在の唐舟志漁港を出港し比田勝港東方約12海里の海域でいか釣漁を行っていたところ、翌9月1日午前3時頃、突如、風速20メートル以上の突風が吹き、付近で操業をしていた僚船2隻から「風浪が強くなってきた為、操業を止め、比田勝港に帰港する」旨無線連絡があり、同日午前4時頃、同僚船2隻の状況を再度確認したところ、1隻の漁船から応答がなかった。

このため、漁船共進丸（救助船）西原船長は異変を感じ該船を捜索することとし、同船が操業していたと思われる海域を捜索中、油のにおいがしたことから周囲を探し、午前5時30分頃、船底を上に向けて転覆している該船を発見するとともに、約300メートル離れた海上にて救命胴衣を着た該船船長を発見、午前5時50分頃、上対馬町所在の厨殿埼灯台から真方位80度約13.1海里海上において同人を船内に収容、救助した。

なお、本件は突然の風により漁船6隻が転覆する大海難が発生したものであり、この救助された者は、突然、船体が右舷側に傾き、自身の身に危険を感じ、救命胴衣を着用して船外に脱出すると同時に船体に海水が流入し転覆したため、同船の近くで漂流し救助を待っていたものである。



突風で転覆していた漁船



原田比田勝海上保安署長表彰を受けた漁船共進丸（救助船）の救助員・西原勝氏（右）と西原浩勝氏（左）



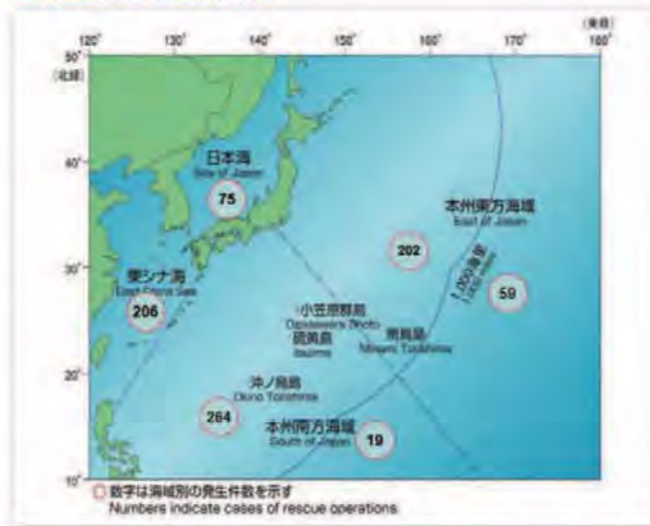
# 洋上救急活動報告

事業開始以来、平成27年12月31日までに825件の洋上救急事案に対応しています。

洋上救急事業は、全国健康保険協会や各諸団体からの資金援助と医療機関、医師・看護師、海上保安庁や自衛隊の全面的な支援を受けつつ、昭和60年10月の事業開始以来、平成27年12月31日までに825件の事案に対応してきました。

これまでに傷病者855名に対し、医師1,064名、看護師506名が出動し、診療や治療を行っています。

■洋上救急発生海域図



○総発生件数825件(昭和60年10月から平成27年12月31日)

平成27年8月11日 14:20発生

## 海上自衛隊 救難飛行艇 (US-1A) による救急搬送

平成27年8月11日、午後2時25分、まぐろ延縄漁船から船舶所有者を通じて全身けいれんを訴えている乗組員の急患輸送依頼があり、第五管区海上保安本部は医療指示を受けるよう助言、宮城県利府掖済会病院より脳疾患の疑いがあることから、早急な精査、加療を要すると指示された。午後2時40分、船舶所有者から洋上救急の要請を受けた。午後5時10分、海上保安庁巡視船「そうや」が該船向け発動。午後5時、海上自衛隊航空集団が災害派遣要請受理。

午後10時50分、海上保安庁航空機LAJ501に特殊救難隊2名及び日本医科大学付属病院医師2名同乗、硫黄島向け羽田発。該船の硫黄島接近状況に合わせ海上自衛隊救難飛行艇の出発時刻を、12日朝とした。

午前8時20分、救難飛行艇が該船向け硫黄島基地出発。午前11時6分、救難飛行艇が該船付近に着水、該船と会合。午後0時3分、救難飛行艇に患者を収容、硫黄島基地向け離水。午後3時、硫黄島基地にて救難飛行艇からLAJ501に患者等引継ぎ午後3時5分、硫黄島出発。午後5時5分、LAJ501羽田基地到着。午後5時10分、患者をLAJ501から東京消防庁救急隊へ引き継いだ。

【発生位置】硫黄島飛行場灯台から真方位114度 723海里

【傷病者】男性 61歳 (日本人船長)

【疾病名】高度熱中症

【出動医療機関】日本医科大学付属病院 (横堀医師、豊原医師)

【出動勢力】海上自衛隊救難飛行艇、巡視船そうや 羽田基地航空機LAJ501



海上自衛隊救難飛行艇US-1Aによる急患の収容の様子



救難飛行艇 (US-1A) から傷病者を海上保安庁航空機に引継

平成27年7月27日 16:00発生

## 大型客船から海上保安庁ヘリコプターへ吊り上げての救急搬送

平成27年7月27日、午後4時頃大型客船の船内にて旅客が倒れていたところを発見、客船の船医が診察したところ、脳梗塞の疑いがあることから、代理店を通じて洋上救急の要請がなされた。27日午後6時50分、鹿児島県谷山ヘリポートで医師、看護師をMH977に同乗させ該船向け出発。27日午後7時50分該船と会合し、機動救難士により患者を吊り上げ収容医師による応急処置を行いつつ谷山ヘリポートへ向かった。27日午後9時4分到着、午後9時8分待機していた鹿児島徳洲会病院のドクターカーに患者を引き継いだ。

【発生位置】高知県足摺岬南西約32海里

【傷病者】男性 82歳 (アメリカ人乗客)

【疾病名】脳内出血

【出動医療機関】鹿児島徳洲会病院 (村岡医師、安楽看護師)

【出動勢力】鹿児島航空基地 MH977



ヘリコプターから患者をドクターカーに引継

平成27年8月14日 17:30発生

## 操業中のいか釣り漁船から航空自衛隊のヘリコプターへ吊り上げての救急搬送

平成27年8月14日午後7時20分頃、操業中のいか釣り漁船から、同日午後5時30分頃該船機関長が持病である心臓の発作を起こし、病院から処方されていた薬を服用するも症状が軽減しないため、船員保険無線医療センターからの医療指示を受けたところ、早急な医療機関への搬送が必要との指示を受け海上保安庁運用司令センターに洋上救急要請がなされた。

午後8時50分、該船及び船主へ洋上救急の実施の確認が執れ、午後9時23分、航空自衛隊新潟救難隊へ災害派遣要請を行った。午後10時23分、偵察機U-125A新潟空港発。午後10時24分、医師、看護師が同乗し、航空自衛隊ヘリコプターUH60Jが新潟空港発。午後10時53分、U-125A現場着。午後11時20分、UH60J現場着。午後11時50分、UH60Jから救助隊員、該船へ降下。午後11時58分、UH60J機内へ患者収容完了。15日午前0時50分、UH60J新潟市民病院ヘリポートに到着し、患者を病院へ引き渡した。

【発生位置】佐渡島弾崎から336度 100海里

【傷病者】男性 52歳 (日本人乗組員)

【疾病名】心筋梗塞の疑い

【出動医療機関】新潟市民病院 (田島医師、山本看護師)

【出動勢力】航空自衛隊新潟救難隊 航空機U-125A ヘリコプターUH60J



急患の通報があったいか釣り漁船



航空自衛隊UH60J機内で傷病者の治療を行う医師等



平成27年11月20日 18:50頃発生

### 太平洋上の離島にある空港を経由して海上保安庁ヘリコプターにて吊り上げ 収容のうえ、中型飛行機に引継ぎ本邦まで傷病者を搬送

平成27年11月20日午後6時50分頃、大王崎南方約350海里沖合を航行中の実習船から、海上保安庁へ「乗組員が背中から腰にかけて痛みを訴え、体温38.9度ある。」旨の通報があり、横浜保土ヶ谷中央病院の医療指示を受けさせたところ、早期加療が必要との助言を受け洋上救急の要請があった。

海上保安庁は、羽田航空基地及び羽田特殊救難基地に出動を指示すると共に、日本医科大学附属医院に医師の出動要請を行った。21日羽田航空基地所属ヘリコプターに、医師1名及び特殊救難隊員3名を同乗させ午前6時に羽田空港を出発し八丈島に向かわせた。八丈島空港で燃料補給後の午前8時5分同空港を離陸して午前9時15分実習船と会合、特殊救難隊員が船上に

降下し、担架により傷病者を吊り上げて機内に収容、午前11時5分ヘリコプターは八丈島空港に到着した。

事前に八丈島空港に医師1名を同乗させ待機していた中型飛行機に患者を引き継ぐと共に、医師、特殊救難隊員を移乗させ、午前11時20分八丈島空港を出発、中型飛行機は同日午後0時25分、羽田空港に到着し患者を東京消防庁救急隊に引継いだ。

【発生位置】和歌山県大王崎から180度 約350海里  
 【傷病者】男性 22歳（日本人乗組員）  
 【出動勢力】羽田航空基地 ヘリMH908、飛行機MA725、  
 特殊救難隊員 3名  
 【疾病名】回盲部リンパ節炎  
 【出動医療機関】日本医科大学附属医院（萩原医師、藤山医師）

平成27年12月8日 07:30発生

### 日本海で操業中のいか釣り漁船の船内で倒れた実習生をヘリコプターで吊り上げ救助

平成27年12月8日午前7時30分頃、石川県金沢の北西約162海里沖合付近で朝食を終えた実習生（男性、22歳、インドネシア国籍）が、気分が悪いと言って船室を出た後、倒れ嘔吐したため、船員保険無線医療センターで医療指示を受けたところ「早期に医師の診察を受けさせること」との指示を受けた。このため、午前9時45分、船舶所有者から第九管区海上保安本部に洋上救急の要請があった。

同本部は、新潟航空基地所属の航空機及びヘリコプターに発動を指示、また、同時に巡視船「やひこ」を能登半島西方沖から該船へ向け発動させるとともに金沢医科大学病院に医師等の出動要請を行った。

新潟航空基地所属の航空機は現場の状況確認等を行い、ヘリコプターは機動救難士2名を同乗させて午前

10時5分、新潟空港から小松空港へ向かい、同空港で金沢医科大学病院医師1名、看護師1名を同乗させ、午後1時、小松空港を該船へ向け出航。

午後1時52分、猿山岬灯台から真方位289度85海里付近海上で該船と会合、機動救難士が該船に降下し、傷病者を吊り上げ機内に収容。午後3時8分小松空港に到着し小松市消防本部救急隊に傷病者を引き継いだ。

【発生位置】石川県金沢市の北西約162海里沖合  
 【傷病者】男性 22歳（実習生 インドネシア国籍）  
 【出動勢力】新潟航空基地 ヘリMH963 飛行機MA864  
 新潟航空基地 機動救難士 2名  
 【疾病名】脳疾患の疑い  
 【出動医療機関】金沢医科大学病院（牛本医師、青出看護師）

#### 洋上救急の発生状況(昭和60年度～平成27年度)

(平成27年12月31日現在)

項目	年度	平成																											計
		昭和60 ～63年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
発生件数	98	42	36	35	42	30	29	27	16	31	30	32	23	18	24	23	37	31	16	26	21	23	33	24	22	18	25	13	825
傷病者	101	47	36	36	45	35	29	28	16	31	30	32	23	18	24	28	41	31	16	27	21	23	35	24	22	18	25	13	855
出動状況	医師・看護師(名)	201	74	62	67	79	61	54	51	33	53	52	63	50	36	44	50	68	54	31	51	37	42	69	53	38	33	46	1570
	(看護師等の再掲)	74	25	21	26	30	22	18	20	11	17	16	24	17	11	13	13	12	16	12	17	9	15	23	13	10	8	10	506
	海上保安庁 巡視船(隻)	98	34	30	24	25	16	13	24	11	23	11	23	16	13	11	14	28	19	16	19	11	15	22	22	13	13	14	586
	航空機(機)	120	55	52	47	65	34	29	35	18	35	30	21	24	16	34	30	60	43	25	31	32	38	29	36	23	19	15	1015
	特殊救難隊員(名) (含む乗客)	29	18	20	14	20	22	18	17	15	12	20	12	10	11	10	18	25	25	17	26	32	39	26	38	29	22	28	594
	自衛隊機(機)	22	12	2	5	..	5	7	6	4	7	10	19	16	10	13	13	10	12	3	20	7	4	32	15	13	13	27	317
船種別	民間船(隻)	1	..	..	..	1	..	1	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	4	
	漁船(隻)	56	24	17	21	26	12	16	17	10	21	17	22	13	13	16	12	23	17	11	14	7	11	17	14	5	7	463	
	汽船(隻)	42	18	19	14	16	18	13	10	6	10	13	10	10	5	8	11	14	14	5	12	14	12	16	10	17	11	361	
船舶	外国船(隻)	33	12	15	12	16	15	10	8	6	9	10	9	14	4	8	9	15	13	5	9	13	13	14	7	12	10	308	

## 洋上救急慣熟訓練

洋上救急では、医師や看護師は慣れない巡視船やヘリコプターに乗り込んで遠く洋上まで出動し、厳しい自然条件や巡視船・ヘリコプターの動揺、振動、騒音など悪条件のもとで救命治療を行うことになります。

このため、洋上救急事業では全国各地で慣熟訓練を行

い多数の医師・看護師が訓練に参加して頂き、ヘリコプター等に搭乗して機内状況確認や応急処置訓練を行うなど、現場の状況を事前に体験し出動に備えています。

慣熟訓練は、平成27年7月以降12月末までに函館地区（道南地方支部）、八戸地区（東北地方支部）、那覇地区（沖縄地方支部）、宮城地区（東北地方支部）釧路地区（道東地方支部）、宮古島地区（沖縄地方支部）の6地区で開催され、医療機関24機関、医師31名、看護師32名が慣熟訓練に参加しました。

### 函館地区 (道南地方支部)

(H27.8.20実施)



巡視船内医務室の説明



ヘリコプターに体験搭乗する慣熟訓練参加者

### 八戸地区 (東北地方支部)

(H27.8.29実施)



訓練参加者と海上保安庁職員、巡視船乗組員の意見交換



巡視船内設備の説明

### 那覇地区 (沖縄地方支部)

(H27.10.15実施)



吊り上げの状況を体験

### 宮城地区 (東北地方支部)

(H27.10.17実施)



患者収容後の機内での応急処置訓練

### 釧路地区 (道東地方支部)

(H27.10.19実施)



患者吊り上げ訓練の見学



患者収容後の機内状況説明



ヘリコプターへの患者収容



搭乗機体の説明



**洋上救急制度創設30周年を迎え、  
これまでにご支援を受けた  
関係者の皆様に「記念盾」を贈呈**

洋上救急制度創設以来これまで、傷病者の救急搬送又は財政支援を継続され、本制度の円滑かつ的確な維持運営に多大な貢献をされてきた団体に、洋上救急制度創設30周年事業の一環としてそれぞれの団体への感謝の意を込めた「洋上救急制度創設30周年記念盾」を贈呈いたしました。

**★ 洋上救急制度創設30周年記念盾贈呈先 ★**

- 海上保安庁 第一～第十一管区(除く第六管区)
- 海上保安本部
- 海上自衛隊 自衛艦隊司令部、航空集団司令部、第21航空群、第22航空群、第31航空群
- 航空自衛隊 航空総隊司令部、航空救難団司令部、航空救難団飛行群、航空救難団整備群
- 全国健康保険協会
- 公益財団法人 日本財団
- 公益財団法人 日本海事センター
- 一般社団法人 大日本水産会
- 一般社団法人 日本船主協会
- 一般社団法人 日本海員救済会
- 一般財団法人 船員保険会
- 全日本海員組合
- 全国漁業協同組合連合会
- 漁船保険中央会
- 全国共済水産業協同組合連合会



海上保安庁へ贈呈  
(佐藤長官(右)と相原会長)



海上自衛隊自衛艦隊司令部(横須賀)へ贈呈  
(左から浮田運用総括幕僚、重岡司令官、向田理事長、内嶋幕僚長、山本作戦主任幕僚)



海上自衛隊、航空集団司令部(厚木基地)へ贈呈  
(左から森田幕僚長、向田理事長、眞木司令官、正司運用支援幕僚)



航空自衛隊航空救難団司令部へ贈呈  
(左が航空救難団司令 鶴田司令官)



健康保険協会へ贈呈(中央左が健康保険協会 篠原理事、平良グループ長、村山リーダー)



日本財団へ贈呈(左から上岡常務理事、向田理事長、相原会長、日本財団 尾形理事長、日本財団 海野常務理事)



日本海事センターへ贈呈(左から日本海事センター 樹野理事長、小幡会長、相原会長(中央))



大日本水産会へ贈呈  
(中央右が大日本水産会 白須会長と重専務理事)



全国漁業協同組合連合会へ贈呈  
(中央が長屋代表理事専務)



船主協会へ贈呈  
(中央左が船主協会 小田副会長、小野理事長)



全日本海員組合へ贈呈  
(左が森田組合長)



船員保険会へ贈呈  
(船員保険会 坂野会長(右)と相原会長)



日本海員救済会へ贈呈  
(中央が日本海員救済会 津野田会長)

**レスキュー41～地方水難救済会の現状 (シリーズ③)**

水難救済を通じて社会的要請に的確に応えていくための取り組みとして水難救済への思いを同じくする仲間において情報を交換し、意識の高揚を図るために2015年1月から「レスキュー41～地方水難救済会の現状」として地方組織について紹介を開始しております。今回は、伊豆地区水難救済会及び岩手県水難救済会を紹介致します。

**伊豆地区水難救済会**

**1 設立年月日**

平成10年3月4日

**2 所在地**

〒415-0000  
静岡県下田市外ヶ岡11番  
下田市漁業協同組合(伊豆漁業協同組合)総務課内  
電話 0558-22-3585  
Email : shimogyo@galaxy.ocn.ne.jp

交通案内  
◎公共交通機関  
伊豆急下田駅 徒歩約10分



伊豆地区水難救済会の入居する伊豆漁業協同組合

**3 役職員の数**

会長 佐藤 泰一(伊豆漁業協同組合 代表理事)  
その他の役員 5名 事務局職員 1名



佐藤 泰一 会長

**4 沿革・歴史等**

平成4年4月11日 下田市救難所、稲取救難所、大熱海救難所、初島救難所発足。  
(社)日本水難救済会、第1回理事会(4.5.26)で議決  
平成4年6月13日 伊東救難所発足。  
(社)日本水難救済会、第4回理事会(5.3.3)で議決  
平成10年3月4日 伊豆地区水難救済会設立  
(伊豆地区(静岡県内のうち下田海上保安部管内)に設置された上記5つの救難所をもって組織。事務局を下田市漁業協同組合総務課に置く。)

**5 地域の特性等**

本会の活動範囲である伊豆半島の東沿岸海域は、古くから沿岸漁業が年間を通じて盛んで温暖な熱海・伊東・稲取、下田など全国でも有数の温泉地や名所・旧跡などの観光地も多く、東京・横浜など近傍の地域から観光客が多く訪れる地域となっています。  
当会の事務局、伊豆漁業協同組合の地方卸売市場、下





田市魚市場は「きんめだい」の産地として全国1位の水揚げを誇り、底魚等中・高級魚の扱いも多く、浅海磯根漁業が盛んで特産品として、いせえび、あわび、さざえ、てんぐさ等の豊富な地域となっています。

また、本会の活動海域は、釣りやダイビング等のマリレジャーのメッカであると同時に下田・石廊崎と東京湾を結ぶ沿岸航路の要衝となっていることもあり、大小様々な船が往来しており、沿岸部では海難事故も多数発生し、伊豆半島周辺及びその近傍における水難の予防と水難による人命、船舶等の救済が重要な地域となっていることから海上保安部や消防機関と連携をとり水難救助活動にあたっています。

## 6 救難所・支所の数等 (平成27年3月末日現在)

救難所：5か所  
救難所員数：348名

## 7 主な保有資器材

AED12台  
双眼鏡5台

## 8 保有救助船

約300隻



物資の輸送など地域総合防災訓練の様子

## 9 活動状況

### (1) 救助実績 (平成26年度)

救助出動件数 10件  
救助員出動員数 42名  
救助出動船舶 14隻  
救助人命 10名

### (2) 海難救助訓練の実施状況

地域総合防災訓練(救援物資海上投下訓練)  
参加人数 14名



安全講習会の様子

## 10 主に力を入れている事業

伊豆地区水難救済会は伊豆半島の東沿岸海域での漁船、マリレジャーへの迅速な救助活動できるよう事業展開しています。

### (1) 救命胴衣着用の推進運動

救命胴衣着用率100%を目指し海上保安部と連携し救命胴衣着用推進運動を積極的に展開している。

### (2) 海難防止講習会の開催

海上保安部、船員災害防止協会の協力を得て定期的に安全講習会を行っている。

### (3) ライフガードレディースの発足

女性独自の視点による安全操業推進活動を展開し漁業関係者による水難事故の撲滅を目指している。

### (4) 青い羽根募金運動推進

救難所員活動の普及推進のため会員、水産関係団体等連携し青い羽根募金運動に努めている。



AEDの使用方法的の習得(上)するライフガードレディースの皆さん(下)

# 岩手県水難救済会

## 1 設立年月日

平成11年10月22日

## 2 所在地

〒020-0023

岩手県盛岡市内丸16-1 岩手県水産会館3F  
岩手県漁業協同組合連合会(指導部指導課内)  
電話 019-626-8082

交通案内

◎公共交通機関

バス：JR盛岡駅から盛岡バスセンター方面行きに乗車(約10分)、県庁市役所前のバス停車すぐ

車：東北自動車道盛岡ICから 約6km



岩手県水難救済会の事務局となっている岩手県漁業協同組合連合会

## 3 役員の数

会長 大井誠治(岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長)

※(公社)日本水難救済会理事

その他の役員数 8名 事務局職員 1名



大井 誠治 会長

## 4 沿革・歴史等

明治39年 6月20日 宮古救難所 発足

明治44年11月15日 大船渡救難所 発足

昭和 4年 1月11日 岩手県委員部を改め、社団法人帝国水難救済会 岩手県支部を設置

昭和 4年 9月 1日 釜石救難所 発足

昭和11年 8月 6日 大槌救難所 発足

昭和27年

戦中、戦後と有名無実であった大船渡救難所は、市内各漁業協同組合で救難業務を開始、昭和36年、各漁業協同組合の救難業務を統合し、大船渡救難所を再興。

昭和38年 4月26日 山田救難所 発足

昭和48年 6月14日 久慈地区救難所 発足

平成11年10月22日 社団法人 日本水難救済会岩手県支部から移管し岩手県水難救済会を設立。主たる事務所を岩手県漁業協同組合に置く。

平成17年 6月

高田救難所 発足

## 5 地域の特性等

岩手県は太平洋に面する延長約708kmの海岸線を有し、海岸の特徴として、県北では陸地が大きく隆起した海岸段丘が発達し、県南では日本における代表的なリアス式海岸という南北で異なる地形を形成しています。

また、三陸沖は世界三大漁場と呼ばれるなど





豊富な水産資源でも有名です。

岩手県水難救済会は平成23年3月11日に発生した東日本大震災大津波により、各救難所が全壊または浸水するなど、壊滅的な被害を受けましたが復旧・復興してきているところです。

このような状況の中で、海難事故の発生の突発性と救助に緊急を要することを鑑み、海上保安部・同署及び各救難所をはじめとする関係機関との連携を密にし、海難防止の啓発並びに海難技術と知識の向上に取り組んでいます。

## 6 救難所・支所の数等 (平成27年10月末現在)

救難所：7か所 支所：26か所  
救難所員数：1,548名

## 7 主要な保有資器材 (平成27年3月31日現在)

救命胴衣241個、ヘルメット206個、キャップライト83個、携帯用拡声器24個、AED7台、双眼鏡18個、トランシーバー20個など

## 8 保有救助船

約1,200隻

## 9 活動状況

救助実績(過去5ヶ年)  
救助出動件数 10件  
救助員出動人数 103名  
救助出動船舶 41隻



設置された青い羽根募金支援自動販売機

## 10 主に力を入れている事業

- 海難防止啓発活動の推進  
全国海難防止強調運動に参画し、岩手県漁連広報誌「ぎょれん」にて周知するなど広報活動を実施している。
- 救難所への支援と救難器具の整備  
東日本大震災により被災した救難所に対し、救難器具の整備事業等を行っている。
- 青い羽根募金活動の展開  
「青い羽根募金支援自動販売機」の設置を推進するなど、青い羽根募金を呼び掛けている。(岩手県水難救済会青い羽根募金自動販売機は、平成27年10月現在 32台)
- AED設置の推進と説明会の開催  
救難所にAEDの設置を推進するとともに、現地において心肺蘇生法の実習やAEDの使用方法等について説明会を開催している。



AED設置の推進と説明会の様子



岩手県漁連広報誌「ぎょれん」にて海難防止啓発活動



# 新設救難所の紹介

海難救助の拠点となる、新たな救難所が新設されています。今回は、平成27年8月以降に設置された2か所の救難所をご紹介します。なお、紹介文は、地方水難救済会からご提供いただきました。

## ■公益社団法人 琉球水難救済会

観光ブームに湧く沖縄の海は県外や、外国の人たちの人気の的である。特に沖縄の白い砂浜、青い海に浸ることは多くの観光客の目的であり、展開されるレジャーは誰も体験したくなる遊びが豊富である。海洋レジャー施設にはライフセーバーやライフガードが配置されていることから施設の近郊で発生する水難救助にも対応できるよう琉球水難救済会の救難所の役割を担っていただきたく本年度も、5か所に新規の救難所を開設しました。この中で、8月と9月に設置した新たな救難所を紹介します。



## ◆アラハビーチ救難所

平成27年8月10日設立 所長以下11名  
所在地 沖縄県中頭郡北谷町字北谷2-21  
安良波公園内アラハビーチハウス

北谷町のアラハビーチは沖縄が日本復帰するまでは小型の米軍飛行場であった。この基地が返還されると急速に商業地として発展し東シナ海に面した海岸は長い海岸線の砂浜に変遷した。北谷町は県都那覇市に近く、商業地と陸上のレジャー施設さらにはビーチを利用した海洋レジャーが一体化した場所であり4つもの救難所が設置されている。アラハビーチは安良波の地名を冠したものである。

このビーチではバナナボート、ジェットスキー、ウェイクボード、パラセーリング、フライボート、パドルボード、グラスボート、シュノーケリング、シーカヤック等々のメニューが展開されています。

このビーチの管理は北谷海人の会(ちゃたんうみんちゅのかい)が北谷町から管理委託を受けて運営しており10名のマリンスタッフが子供を連れて訪れる多

くの外国人や県内の客のレジャーの手伝いをしながら、地域の消防とも連携し水難事故発生時の緊急出動の体制を構築している。



## ◆タイガービーチ救難所

平成27年9月4日設立 所長以下14名  
所在地 沖縄県国頭郡恩納村字富着1550-1  
ホテルモントレ沖縄スパ&リゾート内タイガービーチ

恩納村のタイガービーチは沖縄では老舗のビーチである。海洋レジャーという言葉がなかった頃の沖縄で旧コザ市の歓楽街のレストランの名前をそのまま命名したタイガービーチは近くの基地の米軍人の遊び場として、また県民の憩いの場所となった。平成14年から20年までは救難所として指定されていましたが一時閉鎖していたものの、平成14年大型のリゾートホテルがオープンし、タイガービーチがこのホテルのプライベートビーチとして再び脚光を浴びるようになり救難所を再開することとなった。

開設記念式典は村長さん、海上保安部長、所轄の警察と消防等多くの来賓のご臨席のもとに行われた。

沖合には環状サンゴ礁が並び、うねりの侵入が遮ら

れた静かなビーチであるがサンゴ礁の外側で発生する水難事故には救難所のライフセーバーの皆さんの緊急な対応で事故の絶無を期待しているところです。





公益社団法人 日本水難救済会 平成27年度第2回理事会開催

平成27年度の日本財団への助成金及び日本海事センターへの補助金等の申請について審議されました。

平成27年10月19日、東京・麹町の海事センタービル8階会議室において、平成26年度第2回通常理事会が開催されました。

はじめに、議長である日本水難救済会相原会長の挨拶とご臨席の秋本海上保安庁警備救難部長からご挨拶をいただき、その後、議案審議となりました。議案の、

第1号議案「平成28年度日本財団及び日本海事センター等に申請する予算(案)について」

第2号議案「新規会員入会の承認について」について審議され、それぞれ異議なく承認されました。

議案審議の後、報告事項として  
 (1) 洋上救急制度創設30周年記念事業について  
 (2) 職務の執行状況の報告について  
 (3) マイナンバー制度への対応についての報告がなされ、特段の意見等もなく理事会が終了となりました。



秋本海上保安庁警備救難部長のご挨拶(正面左が栗津救難課長)



第2回通常理事会の様子

「海上保安フェスタ2015 in 横浜」へ (特)神奈川県水難救済会の救助船が参加



訓練中の海上保安庁巡視艇とヘリコプター



救助船HAYAMA

今年度、海上保安庁の特殊救難隊が設立40周年、機動防除隊が設立20周年を迎えました。これを記念し、国民に広く周知し、海上保安業務に関して更なるご理解を深めていただくため、洋上展示訓練を主とする「海上保安フェスタ2015 in 横浜」が平成27年10月10日(土曜日)、横浜港沖周辺海域において実施されました。

「海上保安フェスタ2015 in 横浜」は、巡視船いず体験航海と横浜海上防災基地の一般公開とが実施されましたが、巡視船いず体験航海では、テロ制圧訓練、人命救助訓練、船隊運動訓練等の洋上訓練が行われ、特定非営利活動法人神奈川県水難救済会葉山救難所から救助船「HAYAMA」が人命救助訓練に参加しました。



人命救助訓練中の救助船HAYAMA

(特)長崎県水難救済会橘湾東部救難所南串山支所の救助員が「紅綬褒章」を受章するとともに、内閣総理大臣からも感謝状を頂きました

特定非営利活動法人 長崎県水難救済会

海難救助功勞により平成26年6月2日に名誉総裁表彰が授与され、また本年度の「春の褒章」で紅綬褒章を受章された橘湾東部救難所南串山支所の救助員が内閣総理大臣から感謝状を頂き、平成27年8月28日、午前、長崎県雲仙市の橘湾東部漁業協同組合において、内閣府職員から伝達されました。



内閣総理大臣感謝状の伝達式の模様



感謝状を授与された南串山支所救助員 井上繁氏(前列中央)、(後列中央が福田副会長、前列左が内閣府職員、前列右が中村長崎海上保安部長)

【人命救助の概要】

平成25年12月24日午前2時30分頃、長崎県五島市男女群島女島の南南西約20海里の海上において、漁船明勇丸が船尾の居住区から出火し、消火を行うも火勢は衰えず、船首付近に乗組員4名が退避した。

付近海域において操業中の漁船第一博洋丸(救助員2名及び協力者3名乗組み)は、明勇丸の集魚灯が消灯し、船橋付近にもやもやした光を視認するなど異変に気づき、直ちに明勇丸に向け急行したが、既に後部から前部甲板上に火が回っており、また、風浪高く荒天下のため、船長は同船への接舷は困難と判断し直ちに機関長に指示して救命浮環を投げ入れ、海に飛び込んだ明勇丸乗組員の救助を開始し、救助員及び協力者3名が互いに協力し、午前2時55分、全員を救助したものと。

京都府水難救済会が京都府と「船舶による輸送等災害時応急対策に関する協定」を締結

京都府水難救済会

平成27年8月24日、京都府水難救済会は、京都府庁において、災害時に船舶で物資や被災者を輸送するため、京都府と「船舶による輸送等災害時応急対策に関する協定」を締結しました。協定書は、地震や風水害

の発生時に沿岸部が孤立した場合等を想定したもので、京都府の要請に基づき生活必需品や応急対策のための資機材の輸送、被災者輸送支援などが可能となりました。



協定書を締結する吉本幸男京都府水難救済会会長(左)と京都府 小林裕企画理事兼危機管理監



協定締結時の関係者(左から中西舞鶴海上保安部長、吉本京都府水難救済会会長、小林企画理事兼危機管理監、林防災監、上山中丹広域振興局企画総務部長、松村防災・原子力安全課長)



# 平成27年における日本水難救済会 会長表彰受章者一覧

(敬称略)

平成27年における会長表彰者は次のとおりです。受章された皆様の益々のご活躍を祈念いたします。

## 1 海難救助功労者

### (1) 救助特別功労表彰

#### 個人表彰 (3名)

- 徳島県水難救済会 (鳴門救難所鳴門町支所) 若山謙、向直洋
- 大分県水難救済会 (米水津救難所) 渡邊誠二
- 協力者 (2名): 渡邊加代、田間光一郎

### (2) 救助功労表彰

#### 団体表彰 (1件)

- 徳島県水難救済会 海部救難所瀬浦支所

### (3) 救助出勤回数功労表彰 (29名)

- 北海道海難防止・水難救済センター (1名)  
20回 (久遠救難所上浦支所) 作田正季
- 青森県漁船海難防止・水難救済会 (2名)  
20回 (小泊救難所) 久保田一、佐々木榮
- 山形県水難救済会 (2名)  
20回 (酒田救難所) 池田亀五郎、30回 (念珠関救難所) 飯塚厚司
- 千葉県水難救済会 (10名)  
20回 (銚子市救難所外川支所) 田村惣司、横山明、(九十九里町救難所) 菊崎元厚、(夷隅東部救難所) 中井力男、(鴨川救難所) 石井元和、(金田救難所) 石渡房雄  
30回 (新勝浦市救難所) 渡辺幸治  
60回 (鴨川救難所) 山田清志、松本喜代隆  
130回 (九十九里町救難所) 米澤秀夫
- 神奈川県水難救済会 (3名)  
20回 (鴨居救難所) 二本木誠  
30回 (久里浜救難所) 三富一男、鈴木良司
- 島根県水難救済会 (1名)  
30回 (出雲救難所大社支所) 江角卓一郎
- 佐賀県水難救済会 (1名)  
30回 (玄海中地区救難所) 浜道貴希
- 長崎県水難救済会 (5名)  
30回 (稲佐救難所) 中里稔  
70回 (稲佐救難所) 中ノ瀬長一  
260回 (稲佐救難所) 宮崎一吉  
290回 (稲佐救難所) 宮崎一俊  
320回 (稲佐救難所) 福田一幹
- 福岡県水難救済会 (4名)  
20回 (津屋崎救難所) 魚住昌宏、(大岳救難所) 山田靖之、得能崇司  
30回 (大岳救難所) 竹田聖也

### (4) 勤続功労表彰 (84名)

#### ① 40年勤続功労 (18名)

- 北海道海難防止・水難救済センター (8名)  
(初山別救難所) 加藤一裕、(雄武救難所) 池田憲司、浜谷隆、谷平満博、高木晴光、柳谷秀樹、(室蘭救難所) 清野徳雄、室村吉信
- 秋田県水難救済会 (5名)  
(象潟救難所) 斉藤敏一郎、佐藤国雄、佐々木徳雅、佐々木寿人、佐々木直人
- 神奈川県水難救済会 (5名)  
(走水大津救難所) 廣川治司、(鴨居救難所) 青木則和、福本悟、福本稔、(大磯救難所) 眞間茂

#### ② 30年勤続 (31名)

- 北海道海難防止・水難救済センター (17名)  
(小樽救難所祝津支所) 加藤定雄、佐藤由志郎、大高康弘、(小樽救難所忍路支所) 米田敏広、(室蘭救難所) 川浪浩、川浪昇、(初山別救難所) 土門洋康、(登別救難所) 工藤昭彦、大北茂則、(斜里救難所) 高橋一三、米沢達三、小田桐玲男、岩波元吉、横内健一、種田成司、山本哲史、(虻田救難所) 吉田清正
- 秋田県水難救済会 (7名)  
(戸賀救難所) 白幡克見、三浦定次、飯沢忠男、蓬田章、佐藤康三、三浦勲、(北浦救難所) 本川正次
- 神奈川県水難救済会 (4名)  
(横須賀救難所) 鶴岡茂一、柴崎弥春、(大磯救難所) 渡部誠、二宮成利
- 島根県水難救済会 (3名)  
(出雲救難所大社支所) 佐野武志、(出雲救難所鷺鷥支所) 高橋文夫、(出雲救難所平田支所) 岡 始

#### ③ 20年勤続 (35名)

- 北海道海難防止・水難救済センター (12名)  
(豊浦救難所) 岩佐和典、門真善一、舘岡一則、根笹幸二、高森勝仁、竹島浩、篠崎武彦、(小樽救難所祝津支所) 小山英博、(小樽救難所塩谷支所) 村上寛記、(雄武救難所) 天間一草、阿部友継、(虻田救難所) 瀬野尾恒之



救助特別功労章



救助功労章



救助出勤回数功労章 (20回)



救助出勤回数功労章 (30回)



救助出勤回数功労章 (50回)



救助出勤回数章 (140回)



勤続功労章 (40年)



勤続功労章 (30年)



勤続功労章 (20年)

- 秋田県水難救済会 (10名)  
(象潟救難所) 佐々木昭、佐々木一史、渡辺雅之、(戸賀救難所) 細井登志見、三浦省吾、江島孝男、(八森救難所) 三浦務、(豊救難所) 細川寿美雄、白幡一政、鎌田正博
- 神奈川県水難救済会 (12名)  
(横須賀救難所) 幸保匡太、(走水大津救難所) 小川貴光、(観音崎救難所) 水上功、(久里浜救難所) 榎本幸司、(北下浦救難所) 石井光一、(南下浦救難所) 佐藤勉、石渡久治、藤平仁、(長井救難所) 鈴木繁和、(大磯救難所) 新倉昭次、高橋常春、(小田原救難所) 高橋征人
- 富山県水難救済会 (1名)  
(新湊救難所) 尾山重雄

### (5) 退職職員の永年従事功労表彰 (36名)

- 北海道海難防止・水難救済センター (23名)  
(伊達救難所) 穴戸春雄、(豊浦救難所) 鈴木敏文、藤村建一、久保政徳、丹田美智男、(根室救難所) 澤田武光、(厚岸救難所) 佐藤仁一、川村章平、(歯舞救難所) 竹内一義、(浜中町救難所琵琶瀬支所) 川村清志、赤沼吉則、(浜中町救難所奔視戸支所) 遠藤英美、(浜中町救難所貫人支所) 平野義重、(浜中町救難所散布支所) 田畑弘幸、永坂政樹、本間義明、(斜里救難所) 櫻庭武弘、(雄武救難所) 横内敏男、(小樽救難所塩谷支所) 長沢浩一、(小樽救難所高島支所) 成田正夫、成田潤一、外崎弘道、(小樽救難所東小樽支所) 渡辺雄三
- 千葉県水難救済会 (3名)  
(鴨川救難所) 松本喜代隆、庄司喜吉、山田敏雄
- 新潟県水難救済会 (1名)  
(山北救難所) 佐藤健治
- 福岡県水難救済会 (9名)  
(玄界島救難所) 寺田藤弘、(姪浜救難所) 吉住安則、(弘救難所) 石橋健二、(相島救難所) 稲光加津志、(津屋崎救難所) 永島栄、(長浜救難所) 長村秀男、(波津救難所) 刀根賢一郎、(柏原救難所) 鈴木真一、(馬島救難所) 前田幸一



有功章 (永年勤続)

## 2 洋上救急功労者

### (1) 金色名誉有功表彰

#### 団体: 1件

- (出勤22回)  
○東海大学医学部付属病院

### (2) 金色有功表彰

#### ① 個人: 3件

- (出勤7回)  
○沖縄赤十字病院 医師 佐々木秀章
- (出勤3回)  
○東海大学医学部付属病院 医師 平良隆行  
○日本医科大学付属病院 医師 新井正徳

※注) 平成27年3月、規則改正により出勤回数3回以上は金色有功表彰となった。

#### ② 団体: 2件

- (出勤10回)  
○琉球大学医学部付属病院
- (出勤5回)  
○高知医療センター

### (3) 銀色有功表彰

#### 個人: 1件

- (出勤3回)  
○沖縄赤十字病院 看護師 桃原昌春

### (4) 永年勤続

#### ① 20年勤続

- 東海地区洋上救急支援協議会 幹事 仲野光洋

#### ② 10年勤続

- 洋上救急センター日本海中部地方支部 支部長 當摩栄一



金色名誉有功盾



金色有功盾



銀色有功盾



事業功労有功盾

## 3 事業功労表彰

### (1) 青い羽根募金

#### ① 団体: 延べ88団体

- 陸上自衛隊真駒内駐屯地、陸上自衛隊岩見沢駐屯地、陸上自衛隊名寄駐屯地、陸上自衛隊上富良野駐屯地、陸上自衛隊遠軽駐屯地、陸上自衛隊弘前駐屯地、陸上自衛隊十条駐屯地、陸上自衛隊霞ヶ浦駐屯地、陸上自衛隊新発田駐屯地、陸上自衛隊滝ヶ原駐屯地、陸上自衛隊信太山駐屯地、陸上自衛隊高知駐屯地、陸上自衛隊国分駐屯地(2)、海上自衛隊八戸航空基地、海上自衛隊館山航空基地、航空自衛隊十条基地、航空自衛隊百里基地、航空自衛隊木更津分屯基地、航空自衛隊美保基地、航空自衛隊新田原基地、千代田区海洋少年団、(公社)日本海洋少年団東京地区連盟、藤沢海洋少年団(2)、清水海洋少年団、遊覧船かすみ丸有限公司、浜田海洋少年団、海上自衛隊横須賀地方総監部(2)、Dream World、有限会社モネール、旭商船株式会社、三光海運株式会社、株式会社港屋、SGホールディングス株式会社、陸上自衛隊南恵庭駐屯地、陸上自衛隊北千歳駐屯地、陸上自衛隊旭川駐屯地、陸上自衛隊久里浜駐屯地、陸上自衛隊勝田駐屯地、陸上自衛隊北宇都宮駐屯地、陸上自衛隊板妻駐屯地、陸上自衛隊福知山駐屯地、陸上自衛隊大村駐屯地、陸上自衛隊都城駐屯地、陸上自衛隊川内駐屯地、陸上自衛隊大久保駐屯地、陸上自衛隊船岡駐屯地、海上自衛隊航空補給処、海上自衛隊呉地方総監部、海上自衛隊鹿屋航空基地、航空自衛隊三沢基地隊員一同、航空自衛隊入間基地隊員一同、中日海洋少年団、ボーイスカウト茨城県連盟城里第1団、千葉北部海洋少年団、陸上自衛隊練馬駐屯地司令、陸上自衛隊武山駐屯地、海上自衛隊佐世保所在部隊、大分市、陸上自衛隊別府駐屯地、大分県、別府市、陸上自衛隊湯布院駐屯地、大分海洋少年団、岐阜県庁、愛知県庁、愛知県警察本部、若築建設株式会社、東洋建設株式会社、東京海洋大学学生寮一同、陸上自衛隊富士学校、航空自衛隊那覇基地、陸上自衛隊那覇駐屯地、中城海上保安部、沖縄県、名護市、うるま市、恩納村、宮古島市、石垣市、琉球海運株式会社、一般財団法人沖縄船員厚生協会、太平洋フーズ株式会社、浦添官野漁業協同組合、ココストアイースト、株式会社琉仁カスタマーサービス

#### ② 個人: 延べ12名



## 平成27年度 第1回互助会理事会開催

平成27年10月19日、海事センタービル8階会議室において日本水難救済会救難所員等互助会の平成27年度第1回理事会が開催されました。開催にあたり議長である互助会相原会長の挨拶のあと、次の議案について審議され、それぞれ異議なく承認されました。

第1号議案 平成26年度事業報告及び収支決算(案)について  
 第2号議案 平成27年度事業計画及び収支予算(案)について

また、報告事項として、「東日本大震災に係る互助会規約第18条災害見舞金給付事業について」は、平成26年度をもちまして完了したとの報告がなされました。



互助会第1回理事会の様子

### 【1号議案】平成26年度事業報告及び収支決算(案)について

#### 平成26年度事業報告

(平成26年10月1日から平成27年9月30日まで)

互助会は、日本水難救済会の正会員となっている地方水難救済会に所属する救難所員等(役員を含む。)で、入会を希望する者(会員)で構成され、会員及びその家族(会員等)の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として事業を実施した。

#### 1 加入者数について

平成26年度の加入者数は、20,662名(昨年度19,709名)であった。

#### 2 災害給付及び見舞金給付事業

##### (1)災害給付事業

会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、本人又はその遺族に対して互助会規約に定めるところにより所定の給付を行い、また、会員が前記の災害により死亡した場合に、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈るための事業であるが、26年度においては、岩手県水難救済会久慈救難所所員が磯釣り中に転落し骨折等をした釣り人を、救助中に本人が磯場にて足を滑らせて転倒し、頭部に裂傷を負った事案

が発生した。契約保険会社の東京海上日動火災保険株式会社から災害給付金として52,000円を給付した。

##### (2)休業見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業であるが、26年度において該当する事例はなかった。

##### (3)私物等損害見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失等した場合並びに当該業務中に使用していた船舶の船体・属具を破損等した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業であるが、26年度においては、北海道水難防止・水難救済センター佐呂間救難所員が海中転落した乗組員を捜索中に、船舶が水中の流木にプロペラを接触破損等させた事案が発生した。私物等損害見舞金として29,970円を給付した。

##### (4)遺児等育英奨学金事業

災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む。)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は、

貸与するための事業であるが、26年度において該当する事例はなかった。

##### (5)災害見舞金給付事業

会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付するための事業であるが、平成26年度においては、東日本大震災に係る被害を受けた会員のうち、福島県請戸救難所の64名の会員の方々に合計233万円を給付した。東日本大震災に係る災害見舞金の給付状況は、累計で32救難所、1,119名の会員の方々に合計4,879万円を給付した。

詳細は、「報告事項」(互助会規約第18条災害見舞金給付事業の現状等について)のとおり。

##### (6)互助会誌発行事業

互助会の事業概要、事業成果、決算報告等について、会員への周知等のため、互助会誌を発行する事業であるが、26年度においては、「マリンスキュージャーナル」に互助会コーナーを設け、2015年1月号に平成26年度第1回理事会開催概要、平成25年度事業報告及び収支決算書、平成26年度事業計画及び収支予算書を掲載し、また、2015年8月号に入会案内、事業内容及び災害給付事業等の現状及び概要等について、会員に周知した。

務の遂行中に使用していた船舶の船体・属具を破損等した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付する。

##### (4)遺児等育英奨学金事業

災害給付を受けた会員の遺児(重度の後遺症を負った会員の子で、遺児と同等と認められる者を含む。)に対し、規約の定めるところにより、所定の奨学金を給付又は、貸与する。

##### (5)災害見舞金給付事業

会員が自然災害又は火災等により、住居及び家財又はそれらのいずれかに被害を被った場合に損害の程度に応じて、災害見舞金を給付する。

##### (6)互助会誌発行事業

年2回発行の「マリンスキュージャーナル」に互助会コーナーを設けて、互助会の事業成果、事業成果、決算報告等の会員への周知を図る。

### 【2号議案】平成27年度事業計画及び収支予算(案)について

#### 平成27年度事業計画

(平成27年10月1日から平成28年9月30日まで)

互助会は、日本水難救済会の正会員となっている地方水難救済会に所属する救難所員等(役員を含む。)で、入会を希望する者(会員)で構成され、会員及びその家族(会員等)の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として事業を実施する。

#### 1 会員の募集について

平成27年度の会員数は、平成27年11月30日現在で20,768名であり、ほぼ、前年度の会員は加入している。

地方水難救済会の事務処理が遅れている所もあり、前年度以上の会員加入が見込まれる。

なお、今後とも、互助会の趣旨を周知する等して引き続き会員の募集に努める。

#### 2 災害給付及び見舞金給付事業等

##### (1)災害給付事業

会員が水難救助業務中に災害を受けた場合に、互助会が保険会社と保険契約を締結して、保険会社から本人又はその遺族に対して互助会規約の定めるところにより所定の給付を行う。

また、会員が前記の災害により死亡した場合は、2万円を限度として花輪又は生花を遺族に贈る。

##### (2)休業見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に負傷し又は疾病にかかり、従前得ていた業務上の収入を得ることができない場合に、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付する。

##### (3)私物等損害見舞金給付事業

会員が水難救助業務中に、当該業務の遂行中に携帯していた私物を破損、焼失、紛失等した場合、規約の定めるところにより、所定の見舞金を給付する。

また、会員が水難救助業務中に、当該業

## 平成26年度互助会収支計算書

(平成26年10月1日から平成27年9月30日)

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
I 事業活動収支の部			
1 事業活動収入			
(1)会費収入			
互助会会費収入	20,000,000	20,662,000	△ 662,000
(2)雑収入	3,506,000	5,580,350	△ 2,074,350
受取利息収入	6,000	8,904	△ 2,904
雑収入	3,500,000	5,571,446	△ 2,071,446
事業活動収入計	23,506,000	26,242,350	△ 2,736,350
2 事業活動支出			
①事業費支出	46,780,000	5,528,130	41,251,870
会誌発行費支出	1,000,000	1,278,160	△ 278,160
保険料支出	1,890,000	1,890,000	0
互助会給付金支出	43,890,000	2,359,970	41,530,030
②管理費支出	3,081,102	2,987,506	93,596
人件費支出	1,383,000	1,393,237	△ 10,237
会議費支出	12,000	12,250	△ 250
旅費交通費支出	100,000	0	100,000
通信運搬費支出	130,000	176,927	△ 46,927
事務費支出	71,102	76,118	△ 5,016
電算機事務費支出	136,000	143,230	△ 7,230
印刷製本費支出	236,000	193,167	42,833
光熱水料費支出	26,000	24,437	1,563
賃借料支出	854,000	850,608	3,392
諸謝金	33,000	10,314	22,686
雑支出	100,000	107,218	△ 7,218
事業活動支出計	49,861,102	8,515,636	41,345,466
事業活動収支差額	△ 26,355,102	17,726,714	△ 44,081,816
II 予備費支出	1,000,000	0	1,000,000
当期収支差額	△ 27,355,102	17,726,714	△ 45,081,816
前期繰越収支差額	27,355,102	27,355,102	0
次期繰越収支差額	0	45,081,716	△ 45,081,816

## 平成27年度互助会収支予算書

(平成27年10月1日から平成28年9月30日)

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
(1)会費収入				
互助会会費収入	10,500,000	20,000,000	△ 9,500,000	21,000名 @500
(2)雑収入				
受取利息収入	11,000	6,000	5,000	
雑収入	1,000,000	3,500,000	△ 2,500,000	リーマンからの弁済金
事業活動収入計	11,511,000	23,506,000	△ 11,995,000	
2 事業活動支出				
(1)事業費支出	52,427,000	46,780,000	5,647,000	
会誌発行費支出	1,000,000	1,000,000	0	前年度実績等
保険料支出	1,890,000	1,890,000	0	契約実績額
互助会給付金支出	49,537,000	43,890,000	5,647,000	
災害給付事業	2,000,000	1,000,000	1,000,000	
休業見舞金給付事業	10,000,000	5,000,000	5,000,000	
私物等損害見舞金給付事業	10,000,000	5,000,000	5,000,000	
遺児等育英奨学金事業	10,000,000	10,000,000	0	
災害見舞金給付事業	17,537,000	22,890,000	△ 5,353,000	
(2)管理費支出	3,185,636	3,081,102	104,534	前年度実績額等
人件費支出	1,400,000	1,383,000	17,000	
会議費支出	13,000	12,000	1,000	
旅費交通費支出	200,000	100,000	100,000	本会への招集会議分担
通信運搬費支出	180,000	130,000	50,000	
事務費支出	77,636	71,102	6,534	
電算機事務費支出	144,000	136,000	8,000	
印刷製本費支出	194,000	236,000	△ 42,000	
光熱水料費支出	25,000	26,000	△ 1,000	
賃借料支出	851,000	854,000	△ 3,000	
諸謝金支出	11,000	33,000	△ 22,000	
雑支出	90,000	100,000	△ 10,000	
事業活動支出計	55,612,636	49,861,102	5,751,534	
事業活動収支差額	△ 44,101,636	△ 26,355,102	△ 17,746,534	
II 予備費支出	1,000,000	1,000,000	0	
当期収支差額	△ 45,101,636	△ 27,355,102	△ 17,746,534	
前期繰越収支差額	45,101,636	27,355,102	17,746,534	
次期繰越収支差額	0	0	0	



**【報告事項】 互助会規約第18条災害見舞金給付事業の現状等について**

東日本大震災により被災した地域における住居及び家財の状況について平成23年7月21日の「東日本大震災に係る災害見舞金給付事業に該当する人数調べ」及び平成27年9月30日現在の東日本大震災に係る災害見舞金の請求状況と支給状況等について説明があり、これまでに支給された支給人員と災害見舞金の金額について、下記のとおり報告がなされた。

**東日本大震災に係る災害見舞金給付金の支給状況等について** (平成27年9月30日現在)

救 難 所 名	請求年月日	処理年月日	請求人数(人)	支給人数(人)	災害見舞金額(万円)
岩手県水難救済会高田救難所	23. 7. 8	23. 8. 9	32	32	142
岩手県水難救済会久慈地区救難所	23. 5.24	23. 8.22	3	3	14
茨城県水難救済会平潟支部救難所	23. 6.27	23. 9. 5	11	11	44
茨城県水難救済会川尻支部救難所	23. 6.30	23. 9. 9	12	12	46
22年度計			58	58	246
茨城県水難救済会大洗支部救難所	23. 7.13	23.11.21	22	16	48
岩手県水難救済会大船渡救難所	23.11.18	23.11.28	43	43	196
岩手県水難救済会宮古救難所	23. 9.27	23.12. 9	171	171	775
茨城県水難救済会大津支部救難所	23. 8.26	23.12.24	37	36	74
岩手県水難救済会釜石救難所	23.12. 2	24. 2. 7	44	44	199
宮城県水難救済会石巻救難所	23.12.20	24. 2.20	8	8	38
宮城県水難救済会表浜救難所	24. 2.27	24. 3.16	29	27	121
宮城県水難救済会南三陸救難所	24. 2.14	24. 3.22	38	37	168
岩手県水難救済会釜石救難所釜石東部支所	24. 3.23	24. 4.16	11	11	51
茨城県水難救済会久慈支部救難所	24. 3. 1	24. 5.18	18	11	31
宮城県水難救済会閉上救難所	24. 3. 7	24. 6.22	26	26	118
23年度計			447	430	1,819
福島県水難救済会江名救難所	24. 9.25	24.11. 1	7	7	23
福島県水難救済会中之作救難所	24.10.11	24.11. 1	6	6	26
福島県水難救済会小名浜救難所	24.11.15	24.12. 5	19	19	86
福島県水難救済会久之浜救難所	24.11.15	24.12. 5	38	38	174
福島県水難救済会四倉救難所	24.11.15	24.12. 5	21	21	82
福島県水難救済会沼之内救難所	24.11.15	24.12. 5	11	11	45
福島県水難救済会豊間救難所	24.11.15	24.12. 5	29	29	134
福島県水難救済会勿来救難所	24.11.15	24.12. 5	9	9	36
福島県水難救済会新地救難所	25. 1.25	25. 2.25	12	12	52
福島県水難救済会原釜救難所	25. 1.25	25. 2.25	74	74	328
福島県水難救済会原釜救難所磯部支所	25. 1.25	25. 2.25	18	18	79
福島県水難救済会請戸救難所	25. 3. 1	25. 7.25	79	15	69
福島県水難救済会鹿島救難所	25. 3.12	25. 7.25	22	22	102
24年度計			345	281	1,236
宮城県水難救済会巨理救難所	26. 1.20	26. 4. 1	42	40	195
宮城県水難救済会唐桑救難所	26. 1.24	26. 4. 1	15	14	65
宮城県水難救済会階上救難所	26. 1.20	26. 4. 1	10	10	46
宮城県水難救済会東浜救難所	26. 1.20	26. 4. 1	6	6	28
岩手県水難救済会大槌救難所	26. 3. 7	26. 4. 3	94	94	448
岩手県水難救済会山田救難所	26. 3. 6	26. 5.22	122	122	563
25年度計			289	286	1,345
福島県水難救済会請戸救難所	25. 3. 1	27. 3.11		27	135
福島県水難救済会請戸救難所	25. 3. 1	27. 7. 8		3	13
福島県水難救済会請戸救難所	25. 3. 1	27. 8.25		34	85
26年度計				64	233
総 計			1,139	1,119	4,879

**■ 互助会事務局から**

平成27年度の互助会の会員は、平成27年11月30日現在で20,768名です。昨年度同月末の会員数と比較すると1,263名の増となっております。

日本水難救済会救難所員等互助会につきましては、会員とその家族の相互救済と福利増進を図る観点から各種事業を行うことにより、会員等の生活の安定と福祉に寄与するとともに、日本水難救済会の効率的な事業運営に資することを目的として、平成20年10月に設立しました。この趣旨にご賛同いただき、より多くの方が、互助会に加入していただきますように、よろしくお願いいたします。



**互助会に関する問い合わせ**

互助会に関する、疑問、質問等の問い合わせ先は事務局（経理部）鈴木又は中山が承ります。

電話番号 03-3222-8066  
FAX番号 03-3222-8067  
Email gojyokai@mrj.or.jp

**日本水難救済会会員募集**

日本水難救済会では、会員（2号正会員または賛助会員）となって本会の事業を支援していただける方々を募集しています。

2号正会員資格は、本会の事業目的に賛同して、年会費10万円（10以上）を納付された方で、会員になりますと、総会に出席することにより当会事業に参画できます。

賛助会員は、金品を寄付することにより本会の事業に貢献いただくもので、寄付された方は、法人税・所得税の控除を受けられる特典があります。

希望される方は、当会にご連絡いただければ、入会申込書をお送りいたしますので、必要事項を記入してお申し込み下さい。

**公益社団法人 日本水難救済会**

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地  
海事センタービル7階  
電話：03-3222-8066 FAX：03-3222-8067  
<http://www.mrj.or.jp/index.html>

**編集後記**

☆平成28年は丙申の年。丙申の年は変革の年とも言われています。我が国が発展する方向での変革は大歓迎ですね。救難所員の皆様が元気に過ごされますよう、海上の安全を祈念するばかりです。

☆昨年10月に名誉総裁高円宮妃殿下御台臨のもと洋上救急制度創設30周年記念式典を盛大に挙行することができました。関係の皆様にご挨拶申し上げます。式典に先立って動画で「30年の歩み」を皆様に観ていただきました。この動画は本年6月発行の「洋上救急30年史（仮称）」の付録として配布予定です。

☆マリンスキュー紀行では、鹿児島県水難救済会瀬戸内救難所と奄美市救難所笠利支所取材しました。ご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。瀬戸内救難所及び笠利支所の皆様の意気込みを感じることができました。

☆「レスキュー41～地方水難救済会の現状」は、伊豆地区水難救済会と岩手県水難救済会に執筆いただき有り難うございました。地域ごとに取り組まれている状況を共有することができました。次回は茨城県水難救済会及び愛媛県水難救済会を予定しておりますので宜しくお願いいたします。

☆水難救済を取り巻く環境が変化してきています。自然災害の増加傾向、地方水難救済会を運営する基盤の変化や救難所員の高齢化の傾向、マリネジャー関係者の参加意欲の増大などが見られ、何らかのイノベーションが求められていると思われます。本年4月には全国の半数の地方水難救済会に参集いただき、これらの諸課題についての検討会を開催する予定です。

☆本誌やホームページを全国の救難所員等の情報交換の場として活用いただければと思っております。皆様の投稿をお待ちしております。

（常務理事 上岡宣隆）